

千葉県八千代市

# 新東原遺跡 a 地点発掘調査報告書

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2004.3

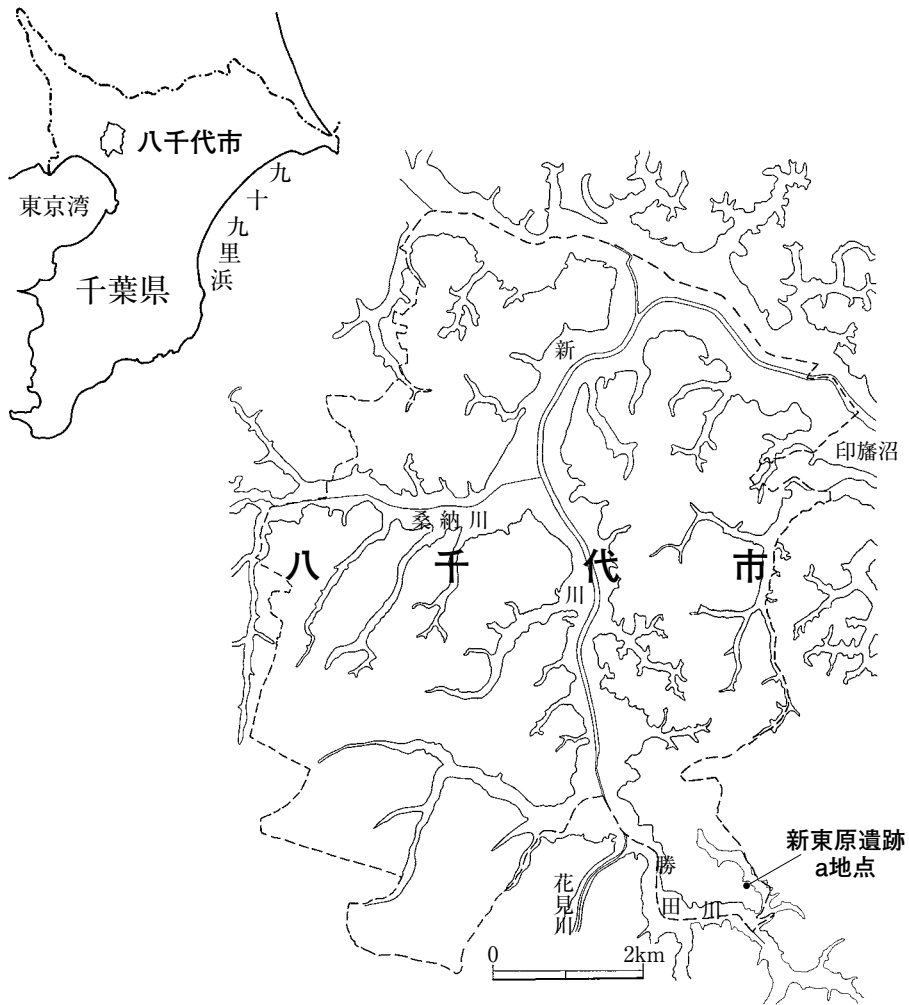
米 元 孝 之

八 千 代 市 遺 跡 調 査 会

千葉県八千代市

しんとうばら  
新東原遺跡 a 地点発掘調査報告書

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 —



## 序 文

八千代市は、「住宅団地発祥の地」として知られるように、昭和30年代における八千代台の町づくりを契機として住宅団地の造成が進み、首都30km圏に位置する住宅都市として成長を続けてきました。

近年では、市域北部における大学と住宅地のセット開発が行われ、文教都市としての側面も併せ持つようになっていきます。また、京成電鉄に加えて平成8年4月には東葉高速鉄道が開業したことで、都心へのアクセスもさらに便利となり、沿線を中心とした新しい町づくりが進み、県内の中堅都市として現在発展しております。

このような状況のもと、八千代市遺跡調査会では、市内で行われる個人や民間企業の開発行為に先行する、埋蔵文化財発掘調査に従事してまいりました。昭和60年代から平成10年頃までの大規模開発時代を経て、最近では中小規模の開発に先行する調査が中心となっております。この度の調査は、市域の南部に当たる勝田字新東原地区において計画された、宅地造成事業に先行するものです。この事業地については、平成12年度に埋蔵文化財についての照会があり、翌13年度に八千代市教育委員会が確認調査を実施し、本調査を必要とする判断されました。その後、平成15年度に協議が再開され、同年度に八千代市遺跡調査会が本調査を実施したものです。

新東原遺跡は、今回のa地点を含めてこれまでに4地点の発掘調査が行われ、縄文時代前期・中期・後期の遺跡であると認識されています。今回の調査では、縄文時代後期の遺物と生活の痕跡等が明らかとなりました。市内では、比較的調査事例の少ない区域での発掘調査報告として、八千代市域の歴史を語るための基礎資料となることでしょう。

過去の人々の生活に思いを馳せ、地域を慈しむ心を育てる教材として、本報告書が大いに活用されることを願っております。

最後になりましたが、調査の実施にあたり多大なご協力をいただいた事業者の皆様を初め、調査から整理までに種々ご指導をいただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。また、調査や整理に従事された調査員、補助員各位の労をねぎらいたいと思います。

平成16年3月31日

八千代市遺跡調査会

会長 三浦幸子

## 凡 例

1. 本書は、八千代市遺跡調査会が実施した、千葉県八千代市勝田字新東原に所在する、新東原遺跡 a 地点の発掘調査の結果をまとめたものである。
2. この調査は宅地造成事業に先行するもので、土地所有者の米元孝之氏と、八千代市遺跡調査会の間で締結した委託契約に基づき、八千代市遺跡調査会が実施したものである。
3. 調査は以下のように実施した。  
確認調査：期間 平成13年6月21日～7月4日 面積264㎡／9,717㎡  
本調査：期間 平成15年12月2日～12月24日 面積690㎡  
基礎整理：期間 平成15年本調査期間中～平成16年1月9日  
本整理：期間 平成16年1月19日～3月31日
4. 確認調査については八千代市教育委員会が実施し、その結果については『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度』（八千代市教育委員会2003）にまとめられている。
5. 本調査・本整理については常松成人が担当した。
6. 本書の図版作成は、常松成人、植田正子、長田京子、立松紀代美、野中則子、山下千代子が行い、編集・執筆は常松が担当した。
7. 遺構Noは、原則として現地呼称をそのまま用いている。
8. 土層説明の土色の表記法については、原則として、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』（13版 1993. 1）を用いた。
9. 区の全体図・土坑群や区の遺物出土状況図・遺物実測図・写真図版のそれぞれの遺物Noは一致させた。しかし、個々の土坑実測図の遺物ドットには、現地取り上げNoを記した。
10. 掲載遺物のうち一括遺物（遺物観察表の「現地取り上げNo」の欄を参照）については、出土位置の記録が無いので出土状況図には掲載していない。
11. 遺物観察表の計測値の欄の（ ）内数値は復元値を、<>内数値は残存状態での計測値を表している。
12. 発掘調査から整理作業の間において、以下の諸氏・諸機関にご指導・ご協力をいただきました。記して感謝いたします。  
朝比奈竹男 矢本節朗 千葉県教育庁文化財課 八千代市教育委員会
13. 出土した遺物・写真・図面等の調査資料は、八千代市教育委員会が保管している。

# 目 次

序文	
凡例	
目次	
I 序章	
1 調査に至る経緯	1
2 新東原遺跡の概要	1
3 本調査の概要	4
II 遺構と遺物	
1 縄文時代	6
2 その他の時代	20
III まとめ	
1 全般的な成果	25
2 縄文時代後期の成果	25
3 縄文時代遺跡としての新東原	25
報告書抄録	28
写真図版	

## 挿図目次

第1図 新東原遺跡の位置	2
第2図 新東原遺跡周辺の旧地形	2
第3図 新東原遺跡の各調査地点	3
第4図 新東原遺跡 a 地点確認調査・本調査 遺構配置図	5
第5図 1区全体図	7
第6図 1区南東壁土層断面図	8
第7図 1区東端土坑群全体図・縄文土器出土状況図	8
第8図 1区東端土坑群各土坑実測図	8
第9図 1区出土遺物実測図	10
第10図 2区全体図・南東壁土層断面図	12
第11図 2区各土坑実測図	13
第12図 2区縄文土器出土状況図	17
第13図 2区・3区出土縄文土器実測図	18
第14図 1区その他の土坑実測図	21
第15図 3区全体図	24
第16図 3区各土坑実測図	24
第17図 新東原遺跡 a 地点 1区東端状況	26
第18図 新東原遺跡 a 地点 2区状況	26

# I 序 章

## 1 調査に至る経緯

### (1) 照会と回答

平成13年3月9日、米元孝之氏から、千葉県八千代市勝田字新東原1282-1ほか9,717㎡について、病院建設を行う目的で「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会が、八千代市教育委員会（以下「市教委」と略）及び千葉県教育委員会（以下「県教委」と略）あてに提出された。これを受けて市教委が現地踏査を行ったところ、現況は山林・荒撫地及び畑地で、山林・荒撫地では遺物の散布状況を観察できる地点は無く、畑地では遺物の散布は確認できなかった。しかし、対象地は、周知の遺跡「新東原遺跡（遺跡No.259）」の範囲内であることから、遺構が検出される可能性があると考えられ、全域について確認調査が必要と判断し、5月7日その旨回答した。この回答に沿って協議が行われた結果、5月25日に「文化財保護法」57条の2第1項の規定による土木工事の発掘届（以下「土木工事の届」と略）が提出され、市教委は準備が整った6月21日に確認調査を開始した。

### (2) 確認調査

7月4日まで調査を行い、264㎡を掘削し遺構・遺物の検出に努めた。その結果、台地上平坦面に近代以降と考えられる遺構を、斜面部に縄文時代後期加曾利B式期の遺構・遺物を検出した。また、低地には低台地は形成されておらず、旧水田面が建築廃材等の瓦礫によって埋められていることがわかった。調査結果については、『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成14年度』にまとめられている。引き続き690㎡の本調査が必要という取り扱いになった。

### (3) 本調査

その後、当初の事業は見直され、平成15年度に至り、開発の目的が宅地造成と改められ、協議が再開された。調査費用は事業者が負担し、発掘調査は八千代市遺跡調査会（以下「市調査会」と略）が受託するという合意がなされた。平成15年10月、米元氏から土木工事の届が提出され、11月、米元氏、市教委、市調査会の3者間で「新東原遺跡 a 地点埋蔵文化財に関する協定書」を締結し埋蔵文化財取り扱いの大枠を定め、さらに米元氏、市調査会の2者間で委託契約を締結した。

事業者によって樹木が伐採され、準備が整った同年12月2日から本調査を開始した。

## 2 新東原遺跡の概要

### (1) 遺跡の立地

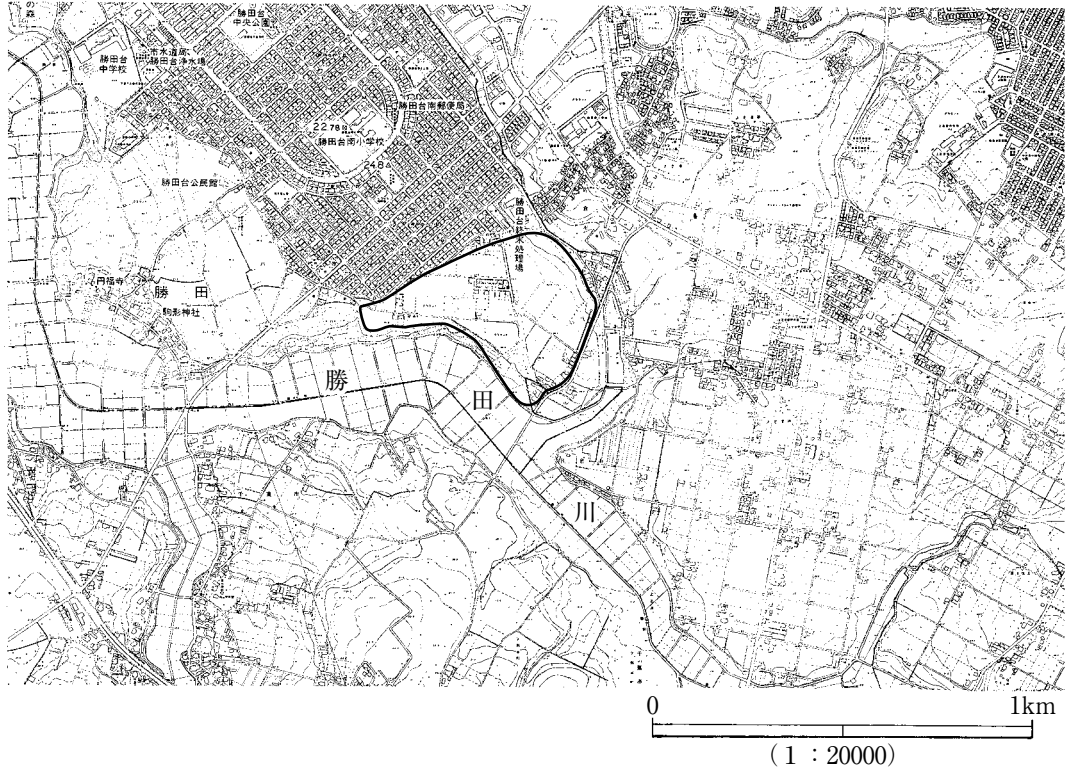
新東原遺跡は、市域の南東部、佐倉市との市境近くに位置する（第1図）。新川の上流に当たる、勝田川とその支流の合流点に臨む台地上、標高20～25mのところ立地する。勝田台団地の南東に隣接した区域であり、畑地と山林が主体を占めているが、宅地化が次第に進んでいる。

a 地点は、遺跡範囲の北端に位置する。勝田川の支流が開析した谷の西～西南側、標高24m前後の台地上から標高20mにかけての斜面部である。明治15年の迅速測図（第2図）を見ると、a 地点の北方には小さな谷があったようである。

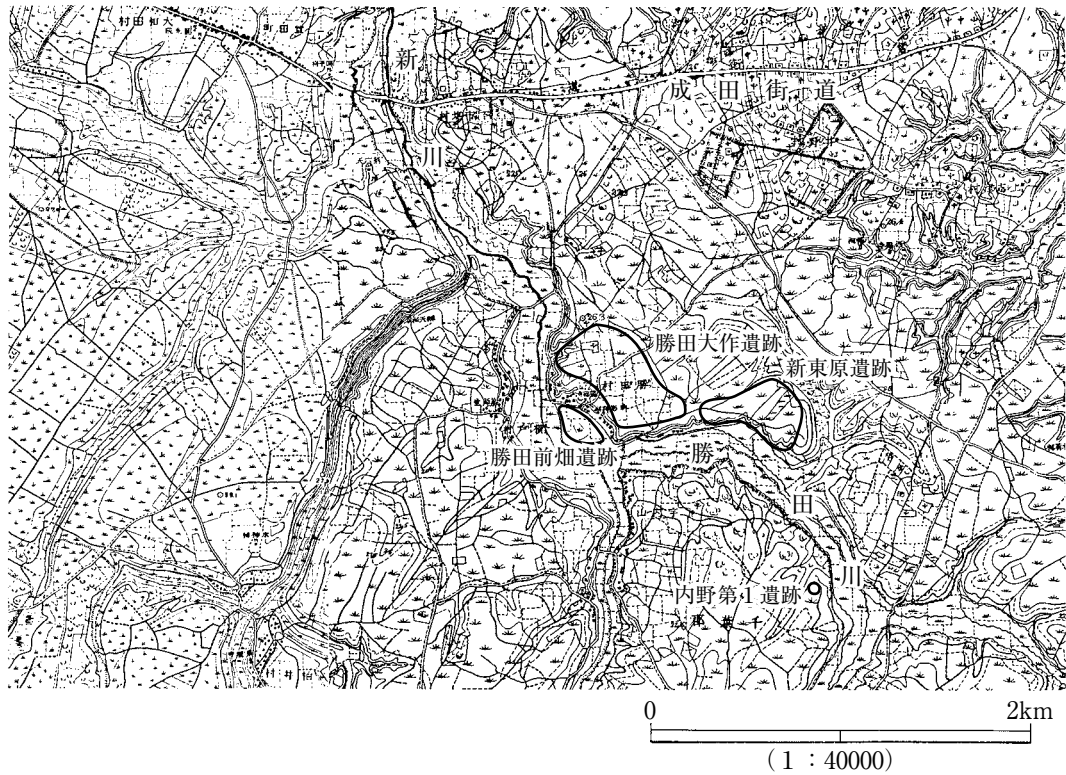
### (2) 新東原遺跡におけるこれまでの調査

平成13年度の a 地点確認調査以降、市教委が3地点で小規模な調査を行った（第3図）。

b 地点は、平成14年度に調査された。遺跡範囲の南端付近、勝田川の北岸に当たる、標高15m前後の低台地上である。検出遺構は縄文時代前期後半と考えられる小型住居跡1軒、遺物は前期後半・中期初頭・後期中葉加曾利B1・B1-2式の土器片約30点程及び礫器1点が得られた。c 地点も同年度に調査された。



第1図 新東原遺跡の位置



第2図 新東原遺跡周辺の旧地形 明治15年迅速測図に加筆

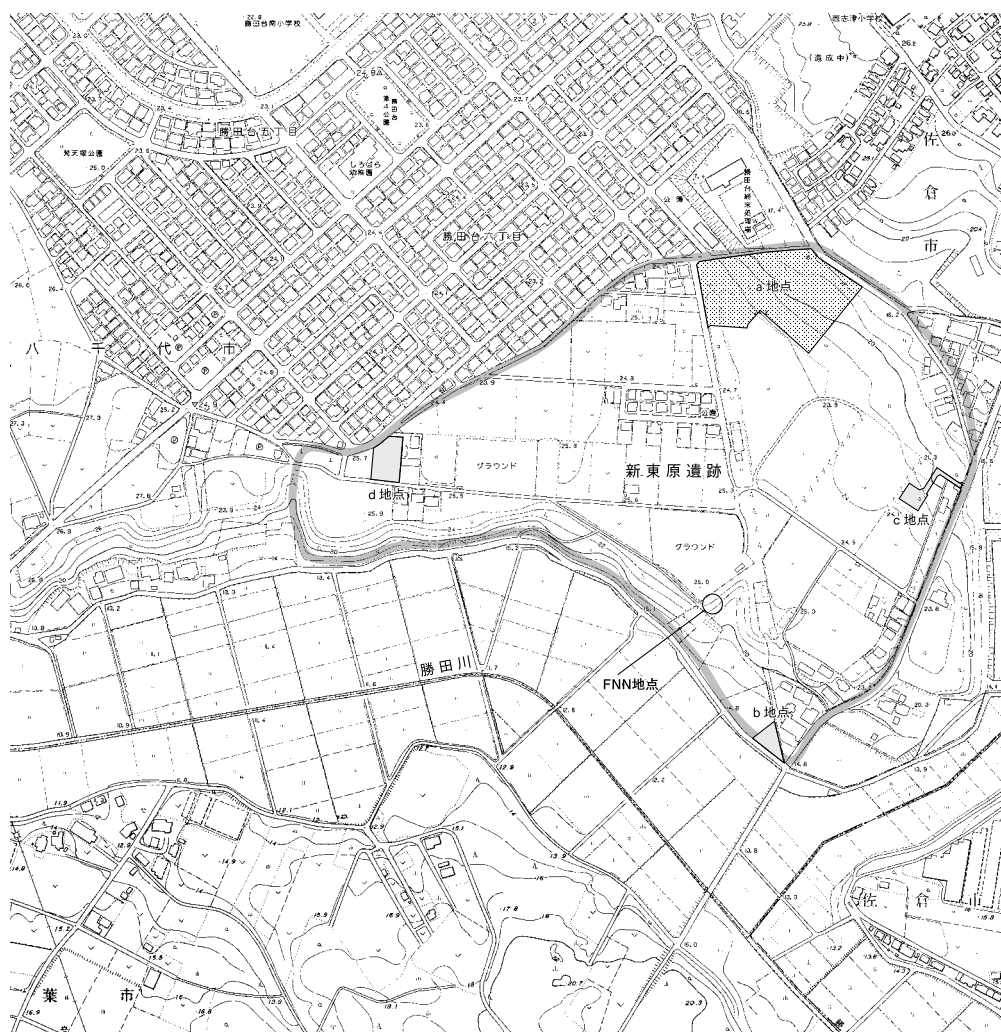
遺跡東端、勝田川の支流の西側、標高19～23mの台地縁辺～斜面であった。表面採集で縄文後期中葉と考えられる土器片が数点得られたのみである。d地点は平成15年度に調査された。遺跡西端付近、標高25m前後の台地上であった。縄文時代中期の加曽利E式土器片数点・チャート製石鏃1点が得られたが、遺構は無かった。

この他に第3図 FNN 地点としたところでは、土地所有者が畑地を耕作していると、時折土器片がまともに出てくるという。土器片は堀之内1式・加曽利 B2式・B3式で計50点ほどである。しかしこの畑地の地表面には遺物の散布を見ることはできなかった。

### (3) 周辺の遺跡 (第2図)

新東原遺跡の西方には勝田大作遺跡がある。昭和60年に発掘調査が行われ、古墳時代前期・後期、平安時代の住居跡計11軒が検出された。同遺跡の北部(旧・上ノ辺田遺跡)では加曽利 B式土器が採集されている(八千代市教育委員会1983)。勝田大作遺跡の南西の低台地には、勝田前畑遺跡があり、縄文時代早期撚糸文系土器や土師器が採集されている。新東原遺跡 b 地点と類似した立地の遺跡である。

南東方約2kmには、千葉市内野第1遺跡がある。縄文時代では後期前葉～晩期前葉を中心に中期末～晩期中葉の遺物が出土し、竪穴住居跡125軒など遺構群が高密度に検出された。また古墳時代前期・中期の集落跡としても大規模である。当地域で拠点となる遺跡である。



第3図 新東原遺跡の各調査地点 (1:5000)



### 3 本調査の概要

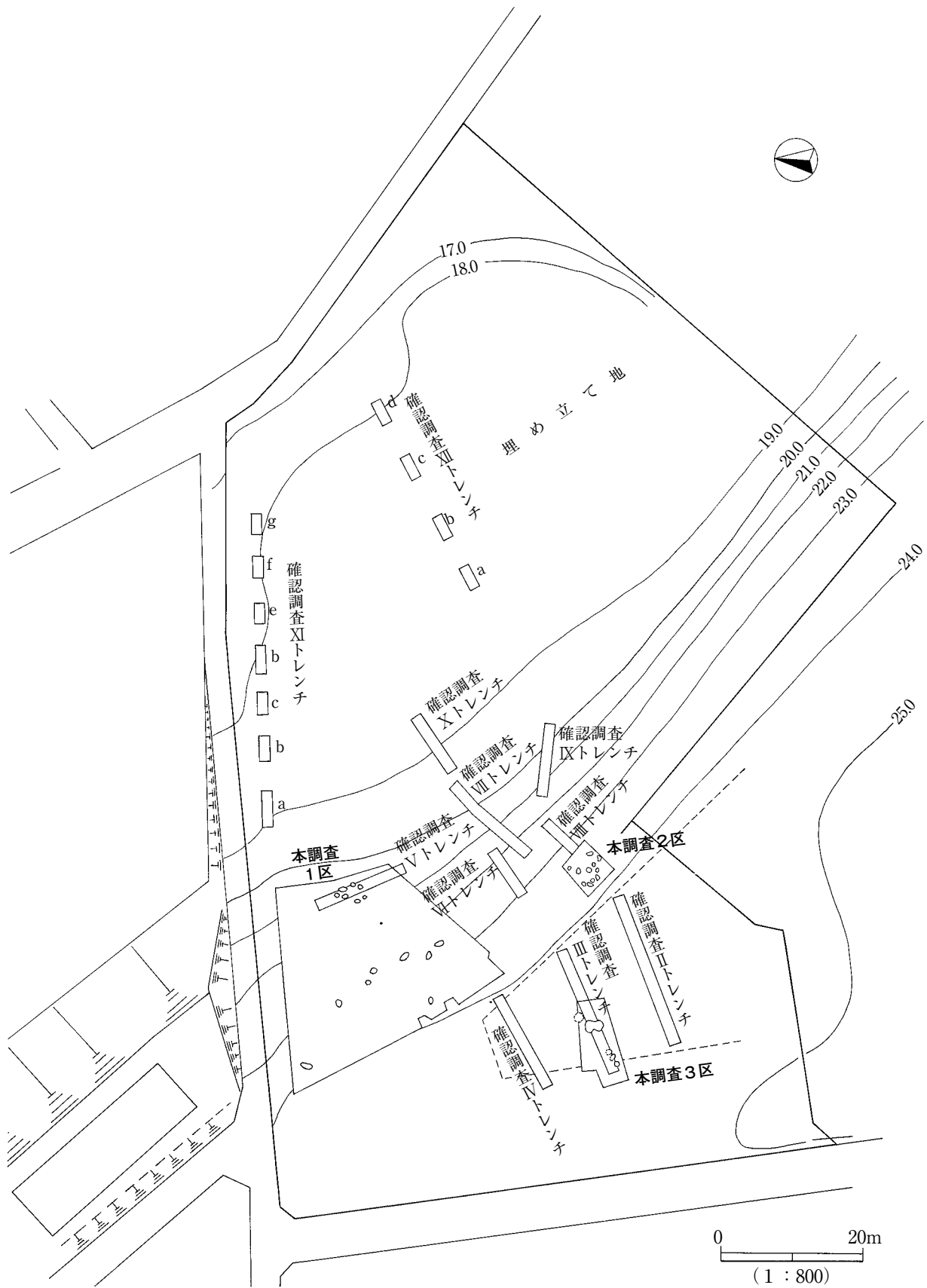
#### (1) 調査区について

本調査の区域は3区に分かれている(第4図)。最も広い所を1区とした。斜面部であり、斜面の下部に確認調査で縄文時代の遺構を検出したVトレンチがある。確認調査Ⅷトレンチの一部を拡張した所が2区で、台地の縁辺部である。確認調査Ⅲトレンチを拡張した所が3区で、台地上の平坦面である。確認調査でⅢトレンチからは近代以降の遺構を検出した。

#### (2) 調査の経過

平成15年12月2日調査開始, 調査区設定・杭打ちなど。3・4・5・8日重機による表土剥ぎと人力による清掃検出作業。4日2区・3区の調査開始。5日3区遺構調査。8日2区遺物の取り上げ。3区遺構調査。9日1区・2区清掃検出作業。10日1区清掃検出作業。2区遺物・硬化面検出。3区遺構調査。11日1区清掃検出作業。2区P10調査。3区遺構調査。12日1区清掃検出作業。2区P10調査。3区遺構調査終了。15日1区に新杭設置。清掃検出作業。2区P10調査終了。さらに遺構検出。3区一部埋め戻し。16日1区遺構調査開始。2区P11～P20調査開始。17日1区P4・P21～P28調査。18日1区遺物の取り上げ, P21～P28全掘。2区P11～P20完掘。19日1区遺構調査。22日1区・2区南東壁土層調査。1区遺構調査。24日1区・2区南東壁土層調査終了。写真撮影。現場調査終了。25日調査用機材等撤収。トイレし尿処理。26日トイレ撤収。

検出遺構は縄文時代土坑18基, 近世・近代以降の土坑12基, 現代の井戸1基, である。



第4図 新東原遺跡 a 地点確認調査・本調査遺構配置図

## II 遺構と遺物

### I 縄文時代

縄文時代後期中葉加曾利 B 式土器片156点と、その時期と考えられる土坑18基を検出した。土坑は2群あり、1区東端の土坑群7基と2区の土坑群11基である。加曾利 B 式土器もほぼすべてがこの2地点から出土した。他に、1区の北部、P22脇から珪質頁岩の剥片1点が出土した。

#### (1) 1区東端の土坑群

確認調査時にVトレンチを設定した付近である。斜面の下方に位置し、遺構確認面の標高は20m前後である。確認調査時に土坑5基を検出し、3基(P01～P03)は完掘まで調査し、トレンチの壁にかかって検出された2基(P04・P05)については、トレンチ範囲のみ掘削し土層調査までを行った。本調査でさらに2基(P29・P30)を加え、合計7基と加曾利 B 式土器片31点を得た。

なお、土坑群近くに当たる1区南東壁の一部の土層を観察した(第6図)。新旧の埋土、道路跡を示す硬化層、旧表土の黒褐色～黒色土、褐色土を斑状に含む暗褐色土、褐色土・暗褐色土を斑状あるいは雲状に含む黒褐色土、褐色土、ソフトローム、ハードローム、AT相当層を確認した。II-3層～II-5層付近が新期テフラ層に相当するであろう。

#### P01土坑

確認調査で検出し、調査した。

**位置** 1区東端。**平面形態** 円形。**規模** 上面65×58cm。底面23.5×7cm。深さ19cm。**長軸方向** N-26°-W。**底面形** 丸底。

#### P02土坑

確認調査で検出し、調査した。

**位置** 1区東端。**平面形態** 円形。**規模** 上面65×57cm。径45cm。深さ24～29cm。**長軸方向** N-17.5°-W。**底面形** 平底。

#### P03土坑

確認調査で検出し、調査した。

**位置** 1区東端。**平面形態** 不整円形。**規模** 上面54.5×47cm。底面43×32cm。深さ14cm。**長軸方向** N-88.5°-W。**底面形** 平底。

#### P04土坑

確認調査で約半分を検出し、本調査で完掘した。

**位置** 1区東端。**平面形態** 楕円形。**規模** 上面120×79cm。底面30×3～7cm。深さ19～32cm。**長軸方向** N-15°-W。**底面形** 有段。

#### P05土坑

確認調査で約半分を検出し、本調査で完掘した。

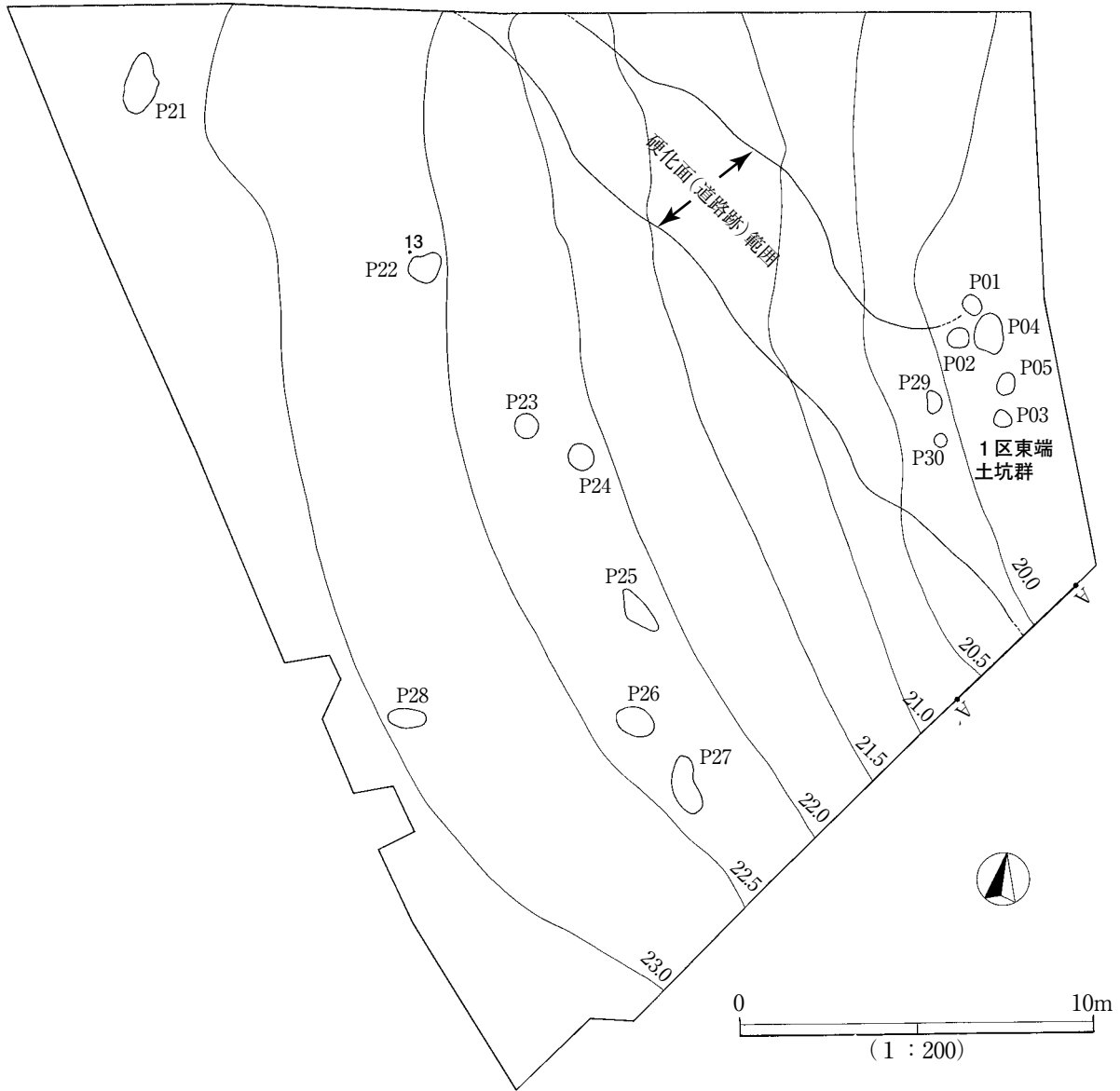
**位置** 1区東端。**平面形態** 円形。**規模** 上面60×52cm。底面38.5×33cm。深さ17～29cm。**長軸方向** N-5°-E。**底面形** 凹凸あり。**遺物** 確認調査時土器片1点出土(第9図11)。

#### P29土坑

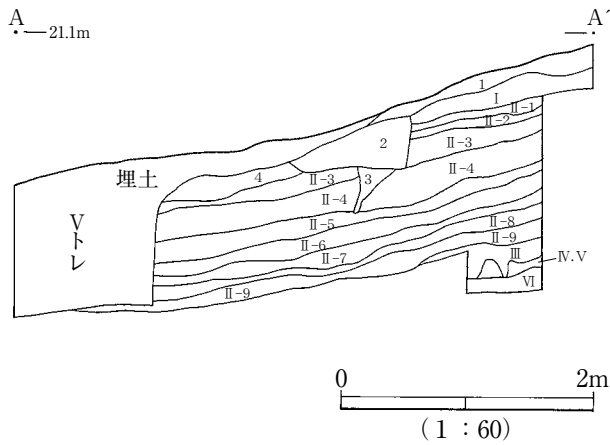
**位置** 1区東端。**平面形態** 楕円形。**規模** 上面69×47cm。底面23×13cm。深さ21cm。**長軸方向** N-12°-W。**底面形** 丸底。

#### P30土坑

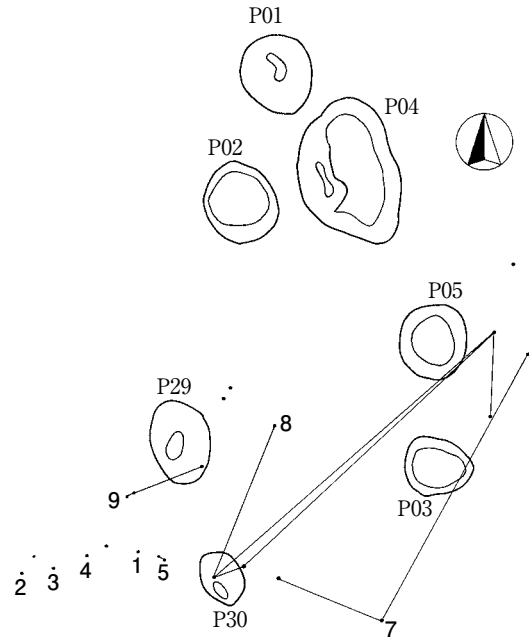
**位置** 1区東端。**平面形態** 楕円形。**規模** 上面45×32cm。底面17×7cm。深さ16cm。**長軸方向** N-



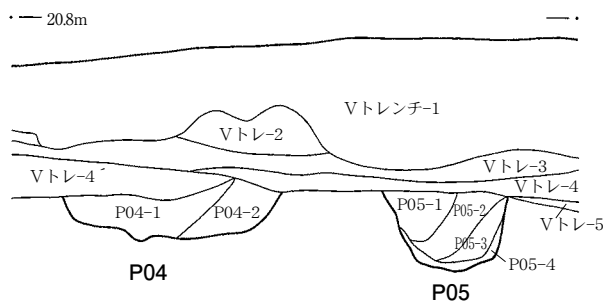
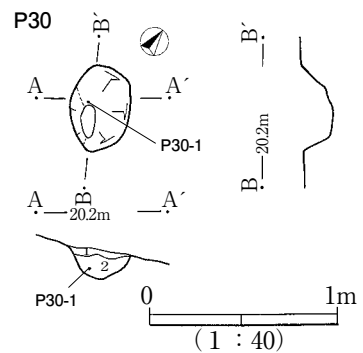
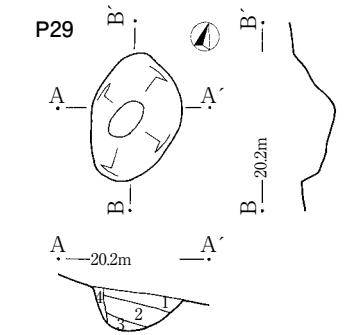
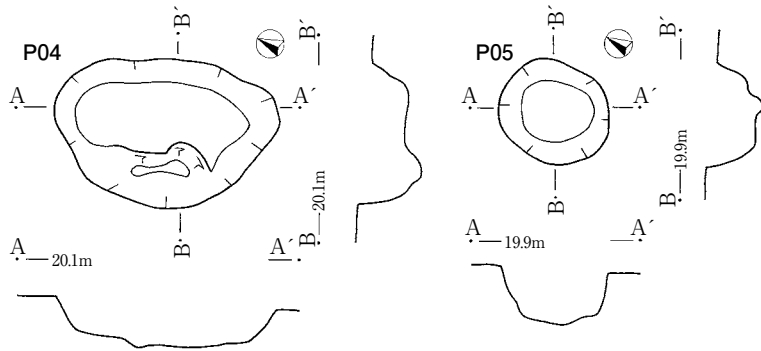
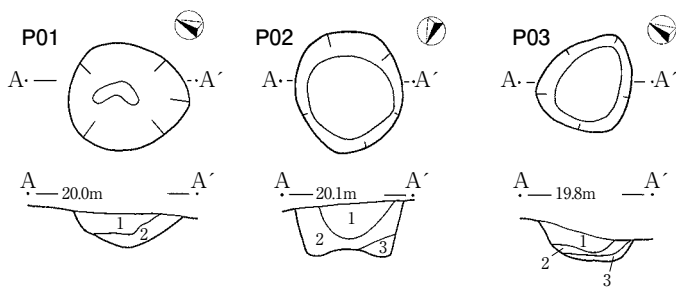
第5图 1区全体图



第6図 1区南東壁土層断面図



第7図 1区東端土坑群全体図・縄文土器出土状況図



第8図 1区東端土坑群各土坑実測図

1区南東壁断面土層観察表（第6図）

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 2/2 (黒褐色)	富む	S L	小亜角塊状	あり	小	19	0	細根あり	埋土。Vトレンチの埋土よりは古い
2	明瞭	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	15	弱	細根富む	径2～3mm黄色スコリア
3		7.5 Y R 3/2 (黒褐色)・ 3/3 (暗褐色) まじり合う	富む	Si CL	屑粒状～ 小亜角塊状	—	0～小	10	弱	細根含む	
4	2と明瞭 II-3と判然	7.5 Y R 3/2 (黒褐色) 主, 4/3(褐色) にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	中	28	弱	細根あり	径1mm以下黄色スコリア, 径2～3mm黒色スコリア。硬化層
I	明瞭	7.5 Y R 2/1.5 (黒褐色～ 黒色)	富む～ 頗る富む	C L	小亜角塊状	あり	小	17	弱	細根富む	径0.5mm以下黄色スコリアまばら 旧表土
II-1	判然	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)・ 3/3 (暗褐色) まじり合う	富む	Si CL	亜角塊状	あり	小	17	弱	細根富む	径1mm黄色スコリアまばら
II-2	渐变	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 3/2(黒褐色) まじる	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	16	弱	細根含む	径0.5mm黄色スコリアまばら
II-3	渐变	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 4/3(褐色) 斑状 (径2～3 cmの斑)	富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	径1mm黄色スコリアまばら 径1mm黒色スコリアまばら
II-4	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 4/3・4/4(褐色) 斑状 (径2～5cmの斑)	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	22	弱	細根含む	径1mm以下黄色スコリア上より多い 径1mm黒色スコリアまばら
II-5	判然	7.5 Y R 3/2 (黒褐色), 4/3(褐色) 斑状, 上より少 ない	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	24	弱	細根あり	径0.5mm以下黄色スコリア上より多い
II-6	判然	7.5 Y R 3/2 (黒褐色), 3/3(暗褐色) 雲状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	22	弱	細根あり	径0.5mm黄色スコリアまばら
II-7	判然	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)	富む	Si CL	亜角塊状	あり	小	22	弱	細根あり	径1mm黄色スコリアまばら
II-8	明瞭	7.5 Y R 3/2 (黒褐色), 4/3(褐色) 雲状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径1mm黄色スコリアまばら
II-9	渐变	7.5 Y R 4/3 (褐色), 3/2(黒褐色) にじむ	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根あり	
III	波状明瞭	7.5 Y R 4/4 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	あり	小	17	中	細根あり	ソフトローム
IV・V	渐变	7.5 Y R 4/5 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	あり	中	22	強	細根あり	径1～3mm黄色スコリア, 径2～3mm橙色スコリア
VI		7.5 Y R 4.5/6 (褐色～明 褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	大	25	強	—	火山ガラス多, 径1mm灰色スコリア, 径1～2mm橙色スコリア

P01土坑土層（第8図）

- 1 黒褐色土 ややボソボソ。暗褐色土が若干混入。
- 2 暗褐色土 ややしまりある。新期テフラの混入多量。黒色土粒を含む。

P02土坑土層（第8図）

- 1 黒褐色土 しまりある。黒色土と暗褐色土を含む。チチしている。
- 2 暗褐色土 しまりある。黒褐色土を若干含む。チチしている。
- 3 暗褐色土 しまりある。黒褐色土少なく2よりも明るい。チチしている。

P03土坑土層（第8図）

- 1 黒褐色土 しまりある。黒褐色土主体。褐色土粒を斑状に含む。  
～暗褐色土
- 2 暗褐色土 しまりある。ローム粒子主体。暗褐色土が混入。
- 3 全掘時に掘り広がった部分。

P04土坑土層（第8図）

- 1 暗褐色土 しまりあるが、やや弱い。
- 2 暗褐色土 しまりある。1に比べ明るい。チチしている。

P29土坑土層観察表（第8図）

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 3/2(黒褐色)・4/3 (褐色) まじる	富む	Si CL	亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径1mm黄色スコリアまばら
2	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 3/2(黒褐色)・4/4 (褐色) まじる	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径1mm黄色スコリア1より多い
3	判然	7.5 Y R 4/3 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根あり	
4	1・2と判然	7.5 Y R 4/4 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根あり	

P30土坑土層観察表（第8図）

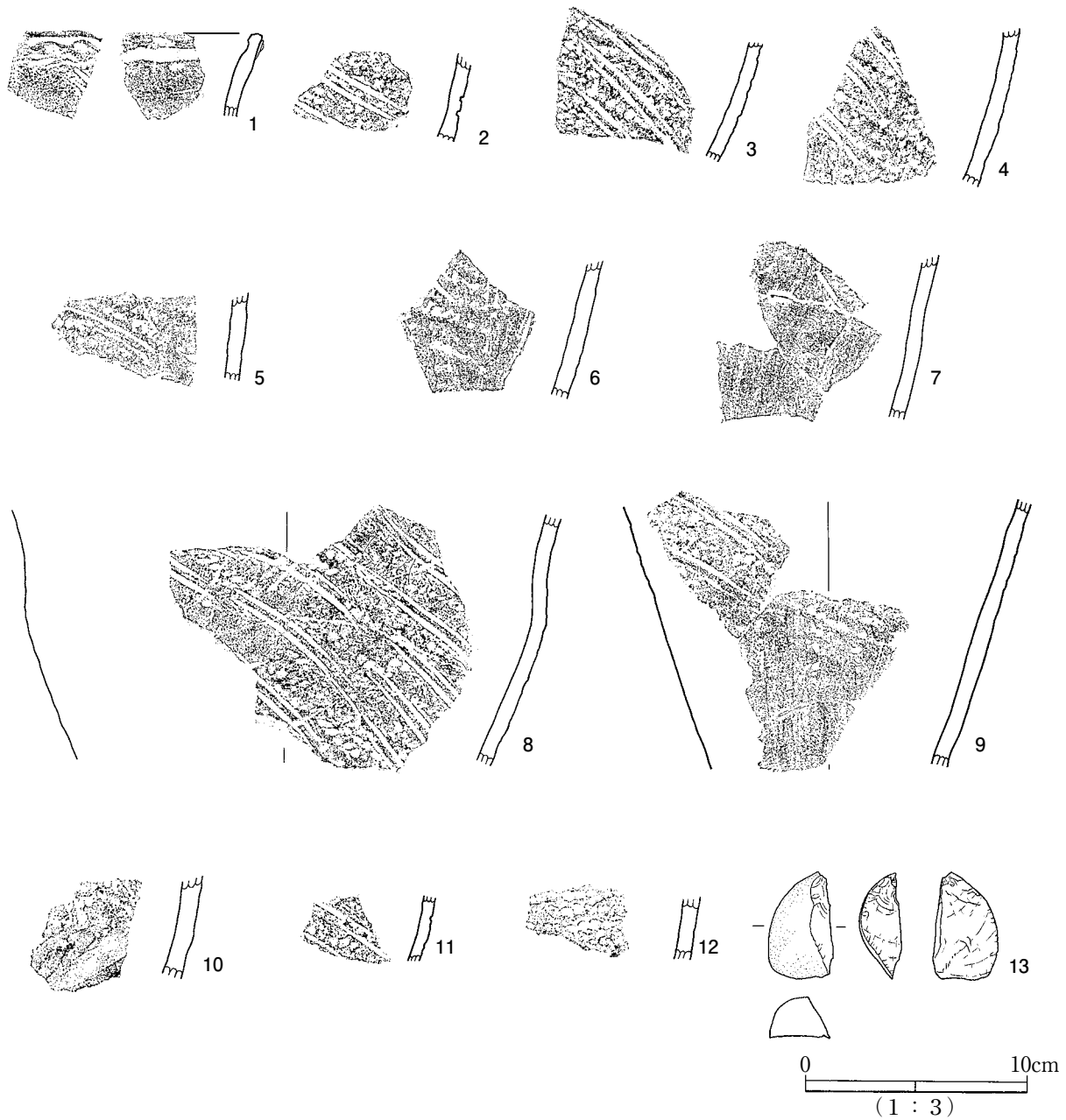
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 4/3(褐色) にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	径1mm黄色スコリアまばら
2		7.5 Y R 4/3・4/4 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根含む	径1mm黄色スコリア1より多い

P05土坑土層（第8図）

- 1 黒色土 しまりある。チチしている。
- 2 黒褐色土 しまりある。新期テフラを斑状に含む。
- 3 暗褐色土 しまりある。2に比べやや明るい。
- 4 全掘時に掘り広がった部分。

Vトレンチ土層（第8図）

- 1 埋土
- 2 旧表土
- 3 硬化層
- 4 新期テフラ下層
- 4' 漸移層
- 5 ソフトローム層



第9図 1区出土遺物実測図

1区出土遺物観察表 (第9図)

遺物No.	器形	部位	計測値 (cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	現地取り上げNo.
1	深鉢	口縁部	器高 <3.7> 厚さ 0.6 ~ 0.8	外) 押圧のある隆帯文。ややくずれた感じ。平行沈線文 (おそらく半裁竹管) の末端が見える。地文無し。 内) 沈線1条。横方向ミガキ。	○砂粒 ○良 ●外) 黒色 内) 暗褐色	1区-11
2	深鉢	胴部	器高 <3.9> 厚さ 0.55 ~ 0.7	外) 地文, 粗い縄文。平行沈線文B種。 内) ミガキ。	○砂粒, 小石粒 ○良 ●外) 暗褐色 内) 褐色, 灰褐色	1区-6
3	深鉢	胴部	器高 <5.3> 厚さ 0.6	外) 地文, 粗い縄文。半裁竹管による平行沈線文A種。 内) ナデ, ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒 ○良 ●外) 褐色, 橙褐色 内) 褐色, 橙色	1区-7
4	深鉢	胴下部	器高 <7.1> 厚さ 0.6 ~ 0.8	外) 地文, 粗い縄文。半裁竹管による平行沈線文A種。 内) ナデ, ミガキ。	○・○上と同じ ●外) 褐色, 淡褐色, 橙色 内) 暗褐色, 灰褐色	1区-8
5	深鉢	胴下部	器高 <3.9> 厚さ 0.6 ~ 0.7	外) 地文の粗い縄文, 平行沈線文A種が見えるが, 縦ミガキによって消されそうになっている状態。 内) 縦ミガキ。	○砂粒, 小石粒 ○良 ●外) 暗褐色, 橙褐色 内) 灰褐色, 橙色	1区-12,13

6	深鉢	胴下部	器高 <6.2> 最大径 (21.8) 厚さ 0.6 ~ 0.75	外) 平行沈線文 B 種。地文、粗い縄文らしいが、縦ミガキで消されている。 内) 縦ミガキ。	○砂粒、小石粒、赤褐色スコリア、白色粒子 ◎良 ●外) 褐色、灰褐色 内) 灰褐色	1区-20
7	深鉢	胴下部 3点接合	器高 <7.5> 最大径 (19.8) 厚さ 0.6 ~ 0.7	外) 上部に、地文の粗い縄文や、沈線1条が見える。縦ミガキ。 内) ナデ、ミガキ。	○砂粒、白色粒子、小石粒 ◎良 ●外) 淡褐色、褐色 内) 黒褐色	1区-19,21,24
8	深鉢	頸部～胴部 6点接合	器高 <11.3> 頸部 (23.6) 厚さ 0.6 ~ 0.7	外) 地文、粗い縄文。半裁竹管による平行沈線文 A 種。 内) 上部横ミガキ。下部縦ミガキ。	○砂粒、白色粒子、小石粒 ◎良 ●外) 暗褐色、灰褐色 内) 褐色、橙褐色	1区-18,16,23,25, P30-1、Vトレ3層
9	深鉢	胴下部 3点接合	器高 <12.0> 最大径 (18.4) 厚さ 0.6 ~ 0.8	外) 上部は、地文、粗い縄文、平行沈線文 A 種。下部は縦ミガキで部分的に上の文様を消している。 内) 縦ミガキ。	○砂粒、小石粒、白色粒子 ◎良 ●外) 褐色、橙褐色 内) 灰褐色、橙色	1区-10,17,28
10	深鉢	胴下部	器高 <4.6> 厚さ 0.8 ~ 0.9	外) 地文縄文か？ヘラケズリ、ミガキ。 内) 横ナデ、縦・横ミガキ。	○砂粒、白色粒子 ◎良 ●外) 橙褐色、褐色 内) 黒褐色、橙色	1区-27
11	深鉢	胴部	器高 <2.9> 厚さ 0.5 ~ 0.55	外) 地文、粗い縄文、半裁竹管による平行沈線文。 内) 縦ミガキ	○砂粒 ◎良 ●外) 灰褐色 内) 橙色、橙褐色	P05 一括
12	深鉢	胴部	器高 <2.8> 厚さ 0.65 ~ 0.7	外) 粗い縄文。 内) 縦ミガキ。	○砂粒 ◎良 ●外) 褐色、淡褐色 内) 灰褐色	Vトレ4層一括
13	石・剥片		4.8 × 3 × 1.8	石材、珪質頁岩	灰色	1区-4

30° - W。底面形 丸底。遺物 土器片1点出土（第9図8の一部として接合）。

## (2) 1区の出土遺物

1区では合計31点の土器片と1点の頁岩剥片を得た。

土器片はすべて1区東端土坑群の周辺で出土したもので、加曽利 B 式の粗製土器である。口縁部1点、他は胴部の破片であった。口縁部は波状になるかもしれない。胴部破片のほとんどは、地文に粗い縄文、その上に平行沈線文を斜方向に施文したものである。平行する沈線間が曲面となり擦痕が残っているため、明らかに半裁竹管状施文具を用いていることがわかるものを平行沈線文 A 種として観察表に記載した。ほとんどの破片はこの A 種であり、胎土・焼成の特徴が似ているので、同一個体と考えられる。平行沈線間に擦痕が残らないのは第9図2と6のみで、これを B 種とした。胎土・焼成はいずれもよく似ている。10はやや厚手、12は他と比べて縄文がしっかりしており、別個体と考えられる。土器片の出土位置の標高は、19.71~20.52mの範囲である。

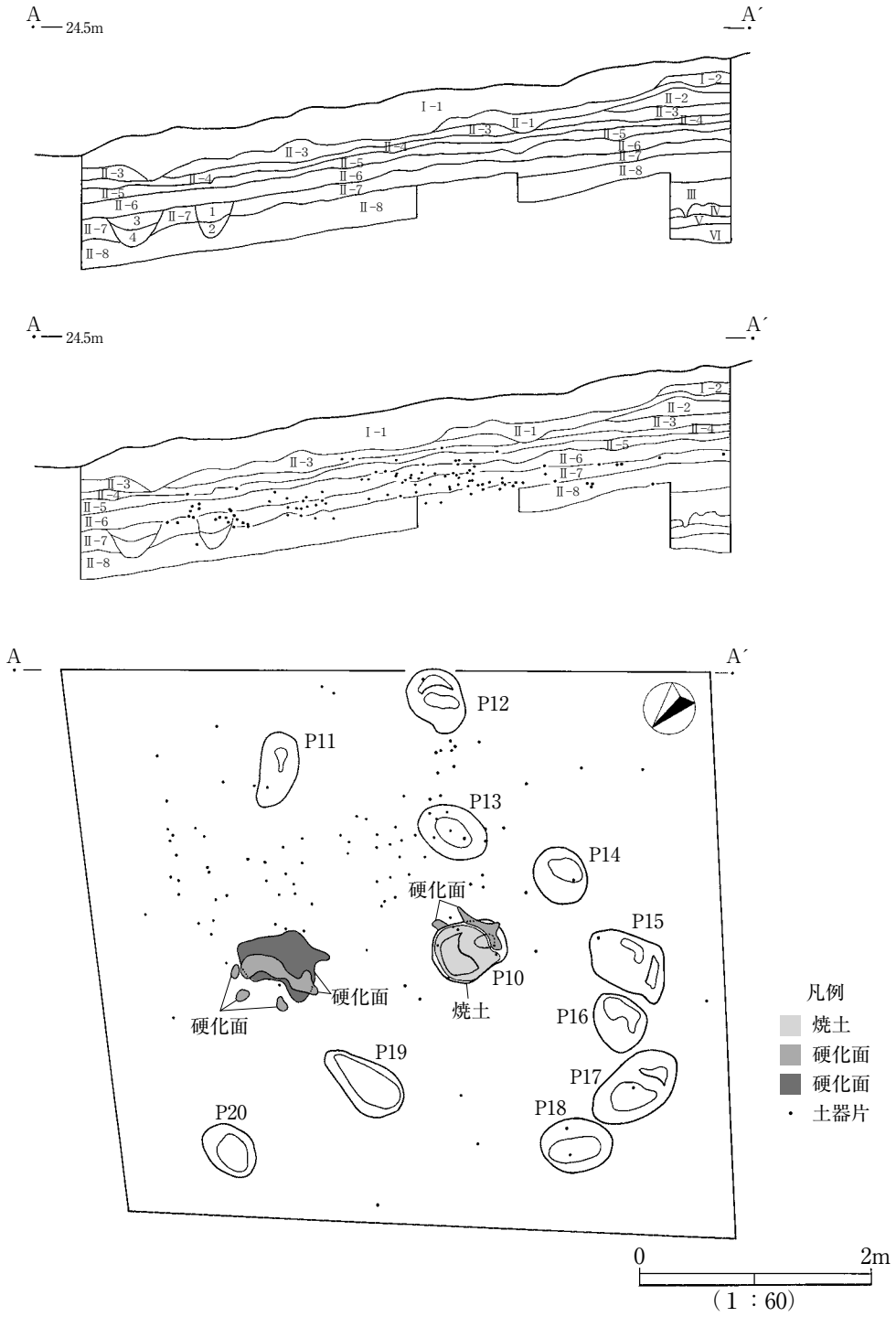
13は、1区北部の P22北側で出土した剥片である。石器石材によく使用される珪質頁岩であるので、縄文時代の所産と考えておく。

## (3) 2区の土坑群

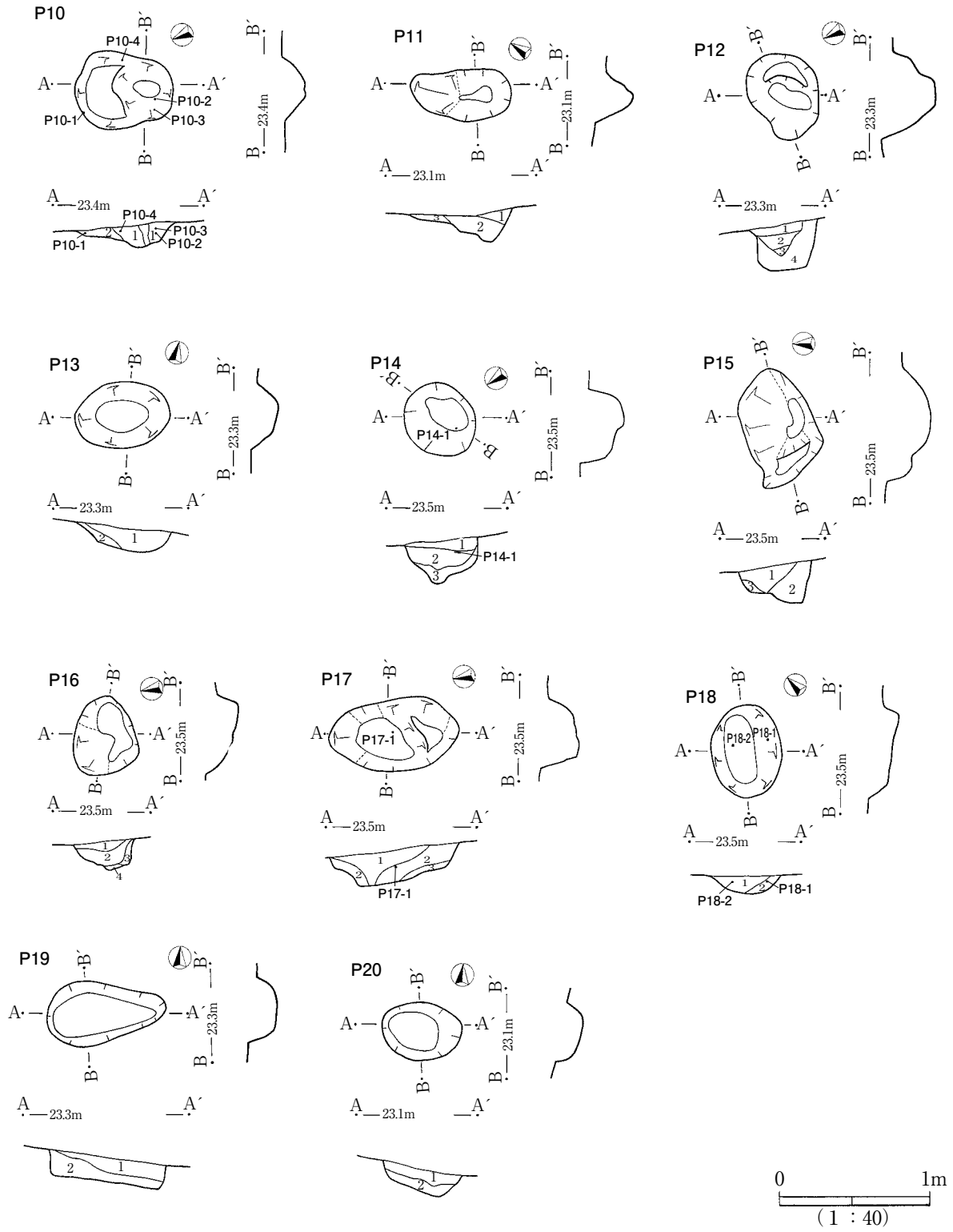
確認調査時にⅧトレンチを設定した付近である。台地上縁辺部で斜面がかっており、遺構確認面の標高は、概ね22.8~23.5mの範囲内である。Ⅱ-7層下部付近で検出したものが多いが、南東壁土層断面の観察から、Ⅱ-6層下部で検出できた可能性がある。土坑11基、縄文土器片124点を得た。

南東壁の土層を観察し、表土の暗褐色～黒褐色土、暗褐色土を斑状に含む黒褐色土、褐色土を斑状に含む暗褐色土、ソフトローム、ハードロームなどを確認した。この面には、P10~P20と同時期らしい遺構の断面が観察でき、Ⅱ-6層（褐色土を斑状に含む暗褐色土）の直下から掘り込まれていると判断された。





第10图 2区全体图·南東壁土层断面图



第11图 2区各土坑实测图

2区南東壁断面土層観察表 (第10図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
I-1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)・3/2 (黒褐色)	富む	Si CL	屑粒状	-	0	2	0	主根含む、細根頗る富む	表土
I-2	明瞭	7.5 Y R 3/2.5 (暗褐色～黒褐色)	富む	CL	屑粒状	-	0	10	0	細根頗る富む	径1～5mm黄色スコリアまばら
II-1	判然	7.5 Y R 3/2.5 (暗褐色～黒褐色)	富む	CL	小亜角塊状	あり	小	18	0	細根富む	径1mm黄色スコリアまばら
II-2	判然	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)	富む	CL	小亜角塊状	あり	小	18	0	細根富む	径1mm以下黄色スコリア上より多い、径1mm以下黒色スコリアまばら
II-3	明瞭	7.5 Y R 3/2.5 (暗褐色～黒褐色)	富む	CL	小亜角塊状	あり	小	20	0	細根富む	径0.5mm黄色スコリアまばら
II-4	漸変	7.5 Y R 2.5/2・3/2 (黒褐色)まじり合う、3/3(暗褐色)斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	15	弱	細根富む	径0.5mm黄色スコリアまばら
II-5	漸変	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)・3/3 (暗褐色)・4/3 (褐色)まじり合う	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	径1mm黄色スコリア
II-6	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)、4/4・4/3(褐色)斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	19	中	細根富む	径1～2mm黒色スコリアまばら
II-7	判然	7.5 Y R 4/3 (褐色)	含む	Si CL	亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	径1～2mm黒色スコリアまばら
II-8	漸変	7.5 Y R 4/4 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	あり	小	19	強	細根含む	
III	波状明瞭	7.5 Y R 4/4 (褐色)、上より暗色	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	強	細根含む	ソフトローム
IV	判然	7.5 Y R 4/5 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	あり	中	24	強	細根あり	径0.5mm黒色スコリアまばら、火山ガラスまばら。径0.5mm橙色スコリア
V	判然	7.5 Y R 5/4 (にぶい褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	大	25	強	細根あり	径1mm灰色スコリア、火山ガラス、径1mm橙色スコリア
VI		7.5 Y R 5/6 (明褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	大	26	強	細根あり	火山ガラス多い、径1mm灰色スコリア、径1mm橙色スコリア
1	判然	7.5 Y R 3.5/3 (褐色～暗褐色)	含む～富む	CL	小亜角塊状	あり	小	16	弱	細根富む	径3mm以下黄色スコリアまばら
2		7.5 Y R 4/3・4/4 (褐色)	含む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	16	中	細根含む	径1mm黄色スコリアまばら
3	判然	7.5 Y R 3.5/3 (褐色～暗褐色)	含む～富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	17	中	細根富む	径1mm黄色スコリアまばら
4		7.5 Y R 4/3・4/4 (褐色)	含む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	17	中	細根富む	径0.5mm黄色スコリアごくまばら

P10 土坑土層観察表 (第11図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	19	弱	細根含む	径5mm以下焼土粒子まばら、径1～2mm炭化物片まばら、径5cm褐色土(7.5YR4/3)ブロック
2		7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	あり	小	18	弱	細根含む	

P11 土坑土層観察表 (第11図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 4/4 (褐色)	含む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根含む	
2	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)主、4/3 (褐色)雲状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	径1～2mm黄色スコリア
3		7.5 Y R 4/4、4/3 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	

P12 土坑土層観察表 (第11図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3.5/3 (褐色～暗褐色)	含む～富む	CL	小亜角塊状	含む	小	14	弱	細根富む	径1～2mm黄色スコリア
2	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径1mm黄色スコリア
3		7.5 Y R 4/3(褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	あり	小	17	中	細根含む	

P13 土坑土層観察表 (第11図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)主、4/3 (褐色)雲状	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	径1～2mm黄色スコリア
2		7.5 Y R 4/3(褐色)	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	

P14 土坑土層観察表 (第 11 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 4/3 (褐色) 雲状	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根含む	径 1 ~ 2 mm 黄色スコリア
2		7.5 Y R 4/3 (褐色), 4/4 (褐色) 斑状	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径 1 ~ 2 mm 黄色スコリア 土器片

P15 土坑土層観察表 (第 11 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 4/3 (褐色) 雲状	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	径 1 mm 黄色スコリア
2	明瞭	7.5 Y R 3.5/3 (褐色~暗 褐色), 4/3 にじむ	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径 1 mm 黄色スコリア
3		7.5 Y R 4/4 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根あり	

P16 土坑土層観察表 (第 11 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	15	弱	細根含む	径 1 ~ 2 mm 黄色スコリア
2	明瞭	7.5 Y R 3.5/3 (褐色~暗 褐色), 4/3 斑状	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径 1 ~ 2 mm 黄色スコリア
3		7.5 Y R 4/3 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	

P17 土坑土層観察表 (第 11 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径 1 mm 黄色スコリア
2	判然	7.5 Y R 3.5/3 (褐色~暗 褐色)	含む~ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	16	弱	細根含む	径 1 mm 黄色スコリア
3		7.5 Y R 4/3 (褐色), 4/4 (褐色) にじむ	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根あり	

P18 土坑土層観察表 (第 11 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	Si CL	亜角塊状	富む	小	18	弱	細根含む	径 1 ~ 2 mm 黄色スコリア
2		7.5 Y R 4/3 (褐色) 暗褐色)	含む 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	径 1 cm ロームブロック

P19 土坑土層観察表 (第 11 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)・ 3.5/3 (褐色~暗褐色) まじり合う	富む	CL	小亜角塊状	富む	小	16	弱	細根含む	径 1 ~ 2 mm 黄色スコリア
2		7.5 Y R 4/3 (褐色)・ 4/4 (褐色) まじり合う	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	

P20 土坑土層観察表 (第 11 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 4/3 (褐色) 斑状	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根含む	径 1 mm 黄色スコリア
2		7.5 Y R 4/3 (褐色)・ 4/4 (褐色) まじり合う	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	

#### P10土坑

**位置** 2区。**平面形態** 不整円形。**規模** 上面66×39～52cm。底面17×11cm。深さ5～15cm。**長軸方向** N-22°-E。**底面形** 有段。**覆土** ごくまばらではあるが、焼土粒子・炭化物片を確認した唯一の遺構である。焼土粒子は大きいもので径8mm、炭化物片は径1～2mmのものであった。火床は無かった。覆土上層及び遺構外側には硬化面が存在した。2区土坑群の中心的遺構と考えられる。**遺物** 4点出土。

#### P11土坑

**位置** 2区。**平面形態** 長楕円形。**規模** 上面68×25～34cm。底面22×3～11cm。深さ11～21cm。**長軸方向** N-29°-W。**底面形** 有段。

#### P12土坑

**位置** 2区。**平面形態** 不整円形。**規模** 上面56×47cm。底面30×10～12cm。深さ18～34cm。**長軸方向** N-61.5°-W。**底面形** 有段。

#### P13土坑

**位置** 2区。**平面形態** 楕円形。**規模** 上面63×44cm。底面34×21cm。深さ12～14cm。**長軸方向** N-83°-W。**底面形** 平底。

#### P14土坑

**位置** 2区。**平面形態** 円形。**規模** 上面49×45cm。底面31×19cm。深さ21～28cm。**長軸方向** N-75°-E。**底面形** 有段。**遺物** 1点出土（第13図28）。

#### P15土坑

**位置** 2区。**平面形態** 不整形。 **規模** 上面76×47cm。底面26×8cm。深さ15～27cm。**長軸方向** N-78°-E。**底面形** 有段。

#### P16土坑

**位置** 2区。**平面形態** 隅丸三角形。**規模** 上面54×43cm。底面34×9～18cm。深さ15～19cm。**長軸方向** N-67.5°-W。**底面形** 平底。

#### P17土坑

**位置** 2区。**平面形態** 長楕円形。**規模** 上面86×48cm。底面40×25cm。深さ15～24cm。**長軸方向** N-10°-E。**底面形** 有段。**遺物** 1点出土（第13図20の一部として接合）。

#### P18土坑

**位置** 2区。**平面形態** 楕円形。**規模** 上面60×46cm。底面45×20cm。深さ9～12cm。**長軸方向** N-39°-E。**底面形** 平底。傾斜。**遺物** 2点出土。

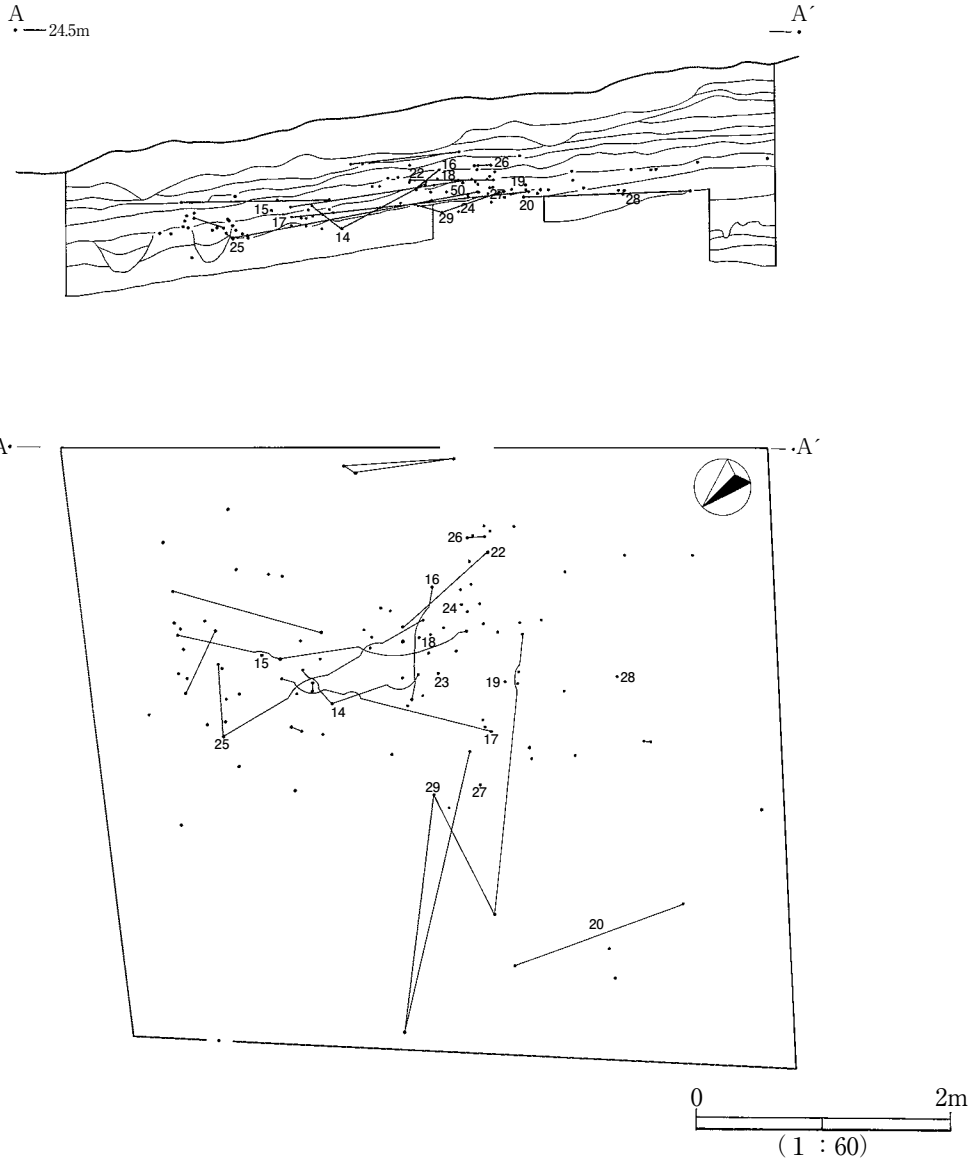
#### P19土坑

**位置** 2区。**平面形態** 滴形。**規模** 上面80×24～44cm。底面69×28cm。深さ13～17cm。**長軸方向** N-78°-E。**底面形** 平底。傾斜。

#### P20土坑

**位置** 2区。**平面形態** 楕円形。**規模** 上面53×39cm。底面33×24cm。深さ12～15cm。**長軸方向** N-88°-E。**底面形** 平底。傾斜。

**硬化面** P10の覆土上層から外側にかけて、またP10の北東約1.5mのところ的存在した。標高にして22.827～23.291m。II-7層上部～II-8層上部に当たる。ブロック状の暗褐色土・黒褐色土・褐色土から成る。地形のとおり傾斜しており、住居跡の床面のようなものとは考えにくい。しかし、焼土が出土したP10の周辺に存在しており、燃焼を伴う行為が行われた結果、当時の人々の活動の痕跡として硬化し



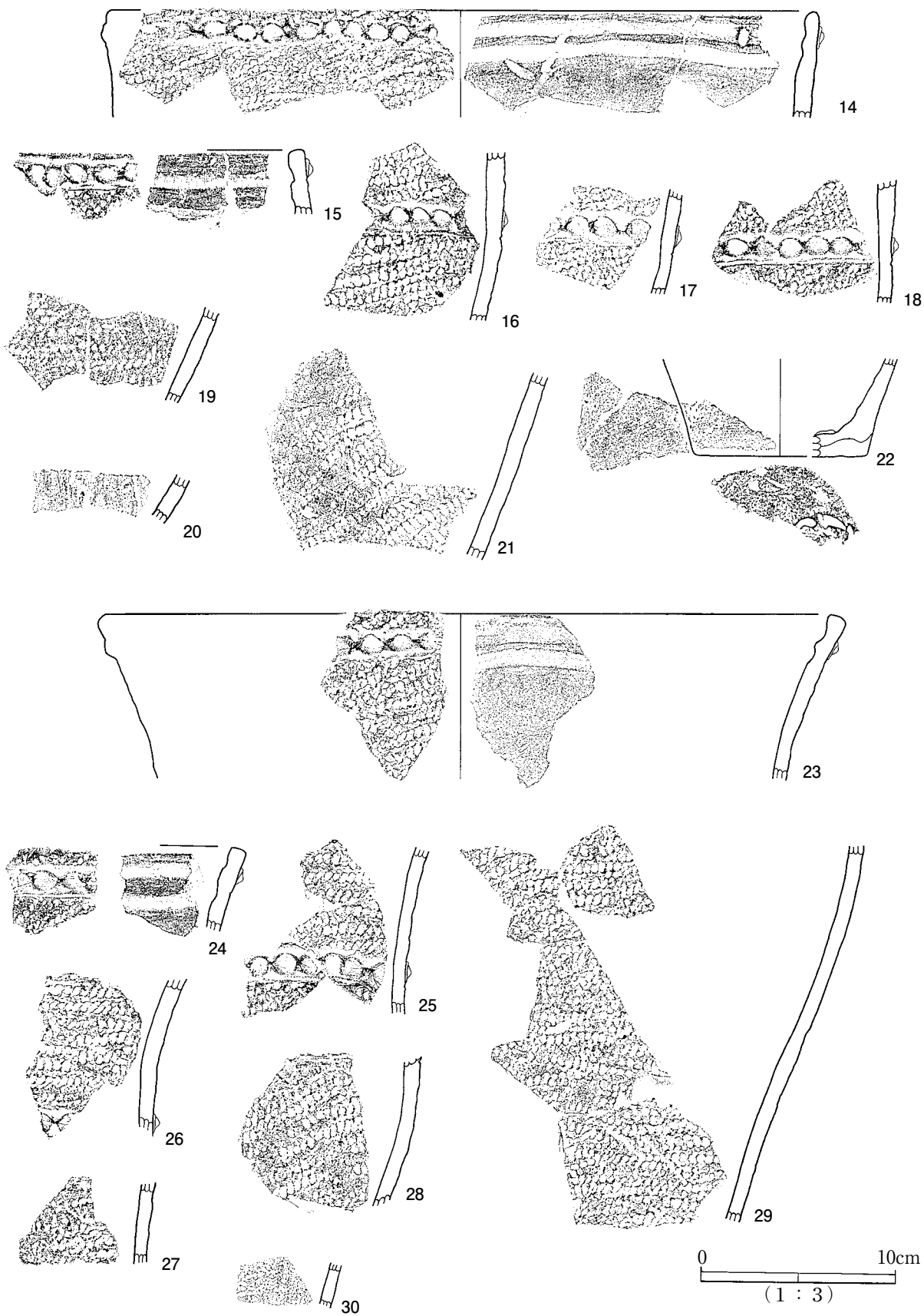
第12図 2区縄文土器出土状況図

たとえられる。

#### (4) 2区出土の遺物

縄文土器片が124点得られた。すべて加曾利B式の粗製土器片である。指頭による押圧を加えた隆帯文が口縁部と胴上部（頸部）に廻る。隆帯文の直下は細い沈線状に窪む場合が多い。地文は粗いLR縄文である。口縁の内面には幅広の沈線が2条廻る。胴下部になると地文は消され縦方向のミガキとなり、底部では横方向の削りとなる。特徴のよく似た破片が多いが、口縁を見ると、15はやや内湾気味、14は直立気味、23は外反し、少なくとも3個体はあるようである。14の内面にある上の沈線の中に、拓影に示したように縦長の楕円形の窪みがある。偶然できた窪みのようにも見えるが、丁度この部分は沈線がさらに広がっており、この縦長楕円形文を意識しているものと考えられる。22の底部は、底面の形が隅丸方形に近いものになるかもしれない。また底面には、何か棒状の物が突き刺さり、土器の内面が盛り上がった状態になっている。その脇には押し引き文のような痕跡がある。いずれも底部としては珍しい現象であろう。

遺物の出土層は、II-3層～II-8層上部で、うち約80%がII-6・II-7層から出土している。



第13図 2区・3区出土縄文土器実測図

2区出土遺物観察表(第13図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	現地取り上げNo.
14	深鉢	口縁部 3点接合	器高 <5.5> 外径 (36.6) 厚さ 0.7 ~ 0.9	外) 地文, 粗い縄文, L R か。押圧のある隆帯文。 内) 幅広の沈線2条。上の沈線内の右端に、 縦長の楕円形文がある。横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 橙褐色 内) 褐色, 橙褐色	28 + 91 + 12
15	深鉢	口縁部 2点接合	器高 <3.3> 外径 (42.8) 厚さ 0.8 ~ 1.1	外) 地文, 粗い縄文, L R か。押圧のある隆帯文。 その直下に沈線。 内) 沈線2条以上。下の沈線の途中までしか わからない。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 褐色 内) 橙褐色	30 + 一括
16	深鉢	頸部付近 2点接合	器高 <8.6> 最大径 (35.8) 厚さ 0.7 ~ 1.1	外) 地文, 粗い縄文, L R か。押圧のある隆帯文。 その直下に細い沈線1条。 内) ナデ, 横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 赤褐色スコリア, 小石粒 ◎良 ●外) 内) 暗褐色, 褐色	21 + 10
17	深鉢	頸部付近 2点接合	器高 <5.3> 厚さ 0.6 ~ 1.0	外) 地文, 粗い縄文, 押圧のある隆帯文。 その直下に細い沈線。 内) 横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 赤褐色スコリア, ◎良 ●外) 淡褐色 内) 淡橙褐色	32 + P104
18	深鉢	頸部付近 2点接合	器高 <6.3> 最大径 (31.0) 厚さ 0.6 ~ 0.9	外) 地文, 粗い縄文, L R か。押圧のある隆帯文。 直下に沈線1条。 内) ナデ, 横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 褐色 内) 橙褐色	17 + 一括
19	深鉢	胴下部 2点接合	器高 <4.8> 最大径 (22.4) 厚さ 0.6 ~ 0.75	外) 粗い縄文。その上に縦ミガキか。 内) ナデ, ミガキ。黒色の付着物。	○砂粒, 白色粒子, 赤褐色スコリア, 小石粒 ◎良 ●外) 橙褐色 内) 黒色, 灰褐色	49 + Ⅳトレ
20	深鉢	胴下部 2点接合	器高 <2.5> 最大径 (16.0) 厚さ 0.7	外) 縦ミガキ。 内) ナデ, 縦ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 赤褐色スコリア, 小石粒 ◎良 ●外) 橙褐色 内) 灰色, 淡褐色	P17-1 + 93
21	深鉢	胴部 4点接合	器高 <9.6> 最大径 (33.0) 厚さ 0.7 ~ 0.9	外) 粗い縄文。L R か。斜方向のごく浅い条 線が3本見える。 内) ナデ, 縦・横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 赤褐色スコリア, 小石粒 ◎良 ●外) 暗褐色, 褐色 内) 暗褐色, 橙褐色	2区一括, 4点
22	深鉢	底部	器高 <5.0> 底径 (9.0) 厚さ 0.7 ~ 1.2 底面 1.1	外) 横ヘラ削り。底面, ヘラ削り, 押引, 刺突。 内) ナデ。	○砂粒, 白色粒子, 赤褐色スコリア, 小石粒 ◎やや脆い ●外) 暗褐色, 褐色。底面, 橙褐色 内) 灰褐色	20 + 55
23	深鉢	口縁部	器高 <8.5> 外径 (39.8) 厚さ 0.7 ~ 1.2	外) 地文, 粗い縄文, L R か。押圧のある隆帯文。 内) 幅広の沈線2条。横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 橙褐色 内) 灰褐色, 橙色, 灰色。	2区-50
24	深鉢	口縁部	器高 <4.4> 厚さ 0.7 ~ 1.2	外) 地文, 粗い縄文。押圧のある隆帯文。 その直下に浅い沈線。 内) 幅広の沈線2条。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●橙褐色	2区-83
25	深鉢	頸部付近	器高 <8.6> 厚さ 0.6 ~ 0.9	外) 地文, 粗い縄文。押圧のある隆帯文。 その直下に浅い沈線。 内) 横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●褐色	82 + 98 + 73
26	深鉢	頸部付近	器高 <8.2> 厚さ 0.8 ~ 1.1	外) 地文, 粗い縄文, L R か。押圧のある隆帯文。 内) 横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●褐色	57 + 58
27	深鉢	胴部	器高 <4.1> 厚さ 0.65 ~ 0.7	外) 粗い縄文, その上にナデか。 内) 縦ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●褐色	P10-1
28	深鉢	胴部	器高 <7.9> 最大径 (28.2) 厚さ 0.7 ~ 0.8	外) 細い沈線が上部に少し見えている。 粗い縄文, L R か。 内) ナデ, 横ミガキ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 暗褐色, 褐色 内) 橙褐色	P 14-1
29	深鉢	胴部	器高 <19.3> 最大径 (32.6) 厚さ 0.7 ~ 0.8	外) 粗い縄文, L R か。 内) 縦ミガキ, ナデ。	○砂粒, 白色粒子, 小石粒, 赤褐色スコリア ◎良 ●外) 褐色, 橙褐色, 灰色, 橙色 内) 灰褐色, 橙色	102 + 2 + 7 + 88 + 3 + 一括

3区出土遺物観察表(第13図)

遺物No.	器形	部位	計測値(cm)	整形・調整・文様などの特徴	○胎土 ○焼成 ●色調	現地取り上げNo.
30	深鉢か	胴部か	器高 <2.2> 厚さ 0.6	外) 縄文, ミガキ。 内) ミガキ。	○細砂 ◎良好 ●外) 灰褐色, 黒色 内) 淡褐色	3区カクラン一括

## (5) 3区出土の遺物

3区の攪乱から1点のみ縄文土器片が出土した(第13図30)。小片のためわかりにくいですが、おそらく加曾利B式であろう。1区・2区の土器片よりも焼成良好である。



## 2 その他の時代

### (1) 1区の土坑

縄文時代の土坑に比べて規模の大きい土坑が、1区の斜面上方で検出された。遺物を伴うものが無く、時期決定が困難であるが、近世以降のものという印象を受けた。覆土は、P21以外は黒褐色土が伴っている。

#### P21土坑

**位置** 1区。**平面形態** 長楕円形。**規模** 上面185×93cm。底面52×27cm。深さ18～21cm。**長軸方向** N - 2° - W。**底面形** 有段。

#### P22土坑

**位置** 1区。**平面形態** 不整円形。**規模** 上面98×77cm。底面56×7～12cm。深さ34cm。**長軸方向** N - 46.5° - E。**底面形** 有段。

#### P23土坑

**位置** 1区。**平面形態** 円形。**規模** 上面71×66cm。深さ(50)cm。**長軸方向** N - 19° - E。**底面形** 斜方に掘られる。

#### P24土坑

**位置** 1区。**平面形態** 円形。**規模** 上面80×74cm。底面66×53cm。深さ15～31cm。**長軸方向** N - 48° - W。**底面形** 凹凸あり。

#### P25土坑

**位置** 1区。**平面形態** 長楕円形。**規模** 上面154×64cm。底面126×7～42cm。深さ14～20cm。**長軸方向** N - 47° - W。**底面形** 丸底。

#### P26土坑

**位置** 1区。**平面形態** 楕円形。**規模** 上面115×74cm。底面18×17cm。深さ40cm。**長軸方向** N - 88° - W。**底面形** 有段。

#### P27土坑

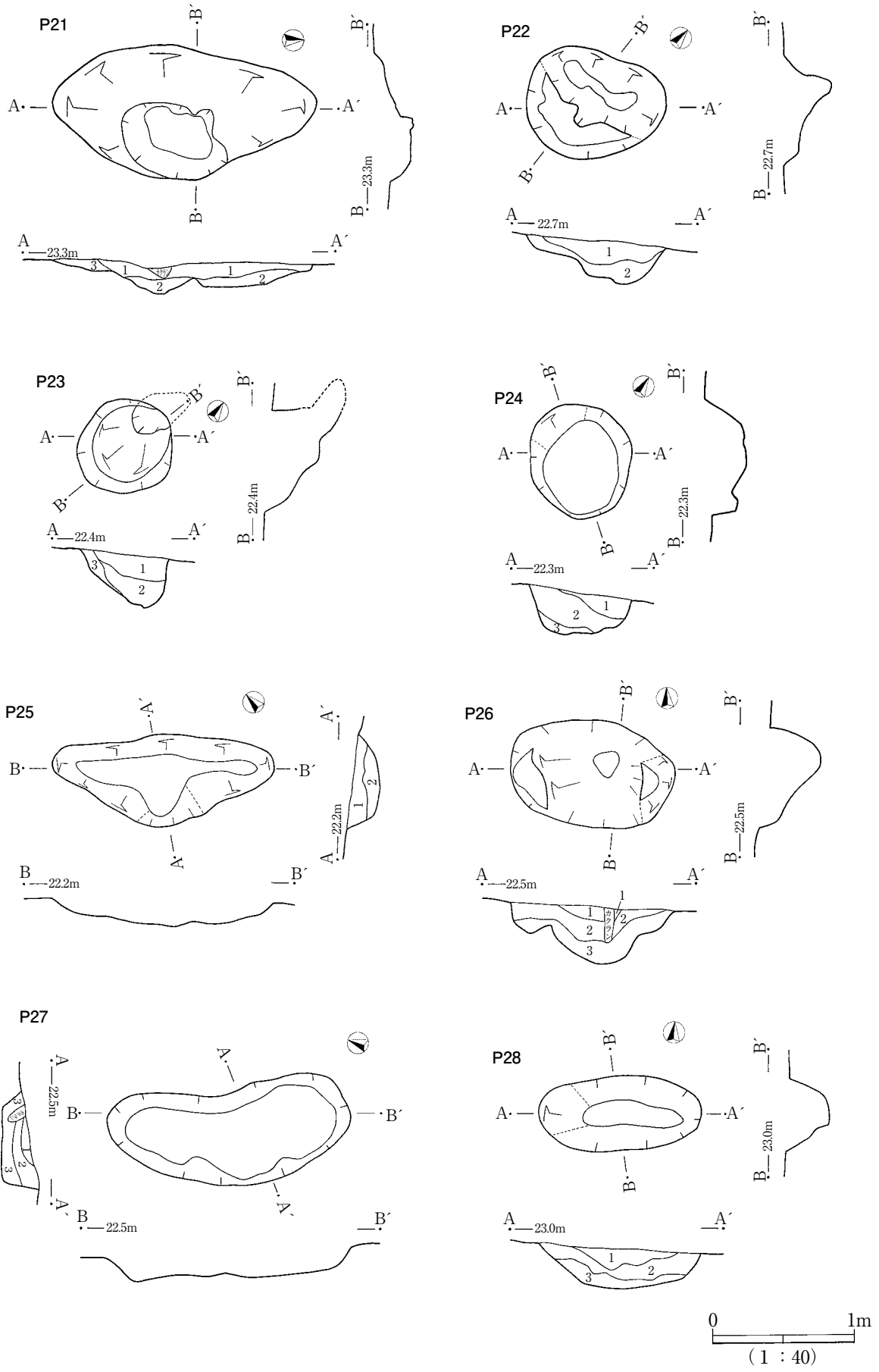
**位置** 1区。**平面形態** 長楕円形。**規模** 上面168×50～70cm。底面147×30～52cm。深さ14～25cm。**長軸方向** N - 21° - W。**底面形** 平底。

#### P28土坑

**位置** 1区。**平面形態** 長楕円形。**規模** 上面114×52cm。底面70×13～17cm。深さ20～29cm。**長軸方向** N - 85° - E。**底面形** 丸底。

### (2) 道路跡

この他、1区には道路跡と見られる硬化面が検出された。発掘前に斜面に不自然な段差が確認されていたのが、これに当たる。1区の北側にある道路（八千代市の雨水管が埋設されている）から南東方向に分かれ、谷への上り下りに使用される道路であったらしい。



第14図 1区その他の土坑実測図

P21 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 3/2・4/3 にじむ	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根富む	径 5mm 以下ロームブロック・粒子
2	判然	7.5 Y R 4/3 (褐色) 主, 3/3・4/4 にじむ	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径 10 cm ロームブロック、径 3 cm 以下ロームブロック・粒子
3		7.5 Y R 4/4 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	ソフトロームに似るがしまり弱い

P22 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色) 3/3 (暗褐色) 斑状	富む	LiC	小亜角塊状	含む	小	13	中	細根富む	径 1mm 黄色スコリアまばら
2		7.5 Y R 3/3 (暗褐色) 主, 4/3・4/4 (褐色) にじむ	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	

P23 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	漸変	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)・ 3/3 (暗褐色) まじり合う	富む	LiC	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	径 2mm 以下黄色スコリアまばら
2	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)・ 4/3 (褐色) まじり合う	含む～ 富む	LiC	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	
3		7.5 Y R 4/3 (褐色)・ 3/3 (暗褐色) まじり合う 4/4 (褐色) にじむ	含む～ 富む	SiC	小亜角塊状	含む	小	15	中	細根含む	

P24 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)・ 3/3 (暗褐色) まじり合う	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	18	弱	細根含む	径 1～2mm 黄色スコリア
2	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色), 4/3 (褐色) 斑状	含む～ 富む	SiC	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根富む	
3		7.5 Y R 4/3 (褐色)	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	

P25 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)・ 3/3 (暗褐色) まじり合う	富む	CL	小亜角塊状	含む	小	17	弱	細根富む	径 1mm 黄色スコリア
2		7.5 Y R 3/3 (暗褐色), 4/3 (褐色) にじむ	富む	SiCL	小亜角塊状	含む	小	19	弱	細根含む	

P26 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)	富む	LiC	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根富む	径 1mm 黄色スコリア
2	漸変	7.5 Y R 3/2 (黒褐色), 3/3 (暗褐色) 斑状	富む	SiC	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
3		7.5 Y R 3/3 (暗褐色), 4/3 (褐色) にじむ	富む	SiC	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	

P27 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	判然	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)	富む	LiC	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	径 1mm 黄色スコリア
2	明瞭	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)	富む	SiC	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	
3		7.5 Y R 4/3・4/4 (褐色)	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	17	中	細根含む	

P28 土坑土層観察表 (第 14 図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 2.5/2 (黒褐色)	富む	CL	亜角塊状	含む	小	16	弱	細根富む	径 1mm 黄色スコリア
2	漸変	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)・ 3/3 (暗褐色)	富む	LiC	小亜角塊状	含む	小	16	中	細根含む	
3		7.5 Y R 4/3・4/4 (褐色)	含む	SiC	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	

(3)3区の土坑

3区は台地上の平坦面で、遺構確認面の標高は24.2m前後である。P06～P08は、確認調査時に検出し、その時点で近代以降のものと判断された。なお、P08は確認調査時には溝状遺構とされたが、本調査の結果、土坑となった。遺物は、P08の攪乱から金属製の玉が、P09から蹄鉄・素焼土器片・砥石片(?)・すり鉢(?)・石が出土した。いずれも新しいもので、特にP09は昭和45年頃までであった井戸である。深さ約2mまで掘って中止した。またその頃まではこの土地は宅地と牧場で、馬を飼っていたとのことであり、蹄鉄の出土はそれを裏付けるものであろう。

**P06土坑**

**平面形態** 楕円形。**規模** 上面84×64cm。底面54×32cm。深さ14cm。**長軸方向** N - 31.5° - E。**底面形** 丸底。

**P07A土坑**

**平面形態** 楕円形。**規模** 上面<98×78>cm。底面<22>×4cm。深さ13～18cm。**長軸方向** N - 83.5° - W。**底面形** 有段。

**P07B土坑**

**平面形態** 楕円形。**規模** 上面<70×54>cm。底面<48×32>cm。深さ14～18cm。**長軸方向** N - 21° - E。**底面形** 平底。

**P08土坑**

**平面形態** 不整形。**規模** 上面252×120～190cm。底面209×111～173cm。深さ3～15cm、ピット部20～34cm。**長軸方向** N - 13° - W。**底面形** 平坦、小ピット4基あり。

**P09土坑**

**平面形態** 円形。**規模** 上面168×148cm。内部は径90cm。**長軸方向** 0°。**性格** 井戸。

P06 土坑土層観察表 (第16図)

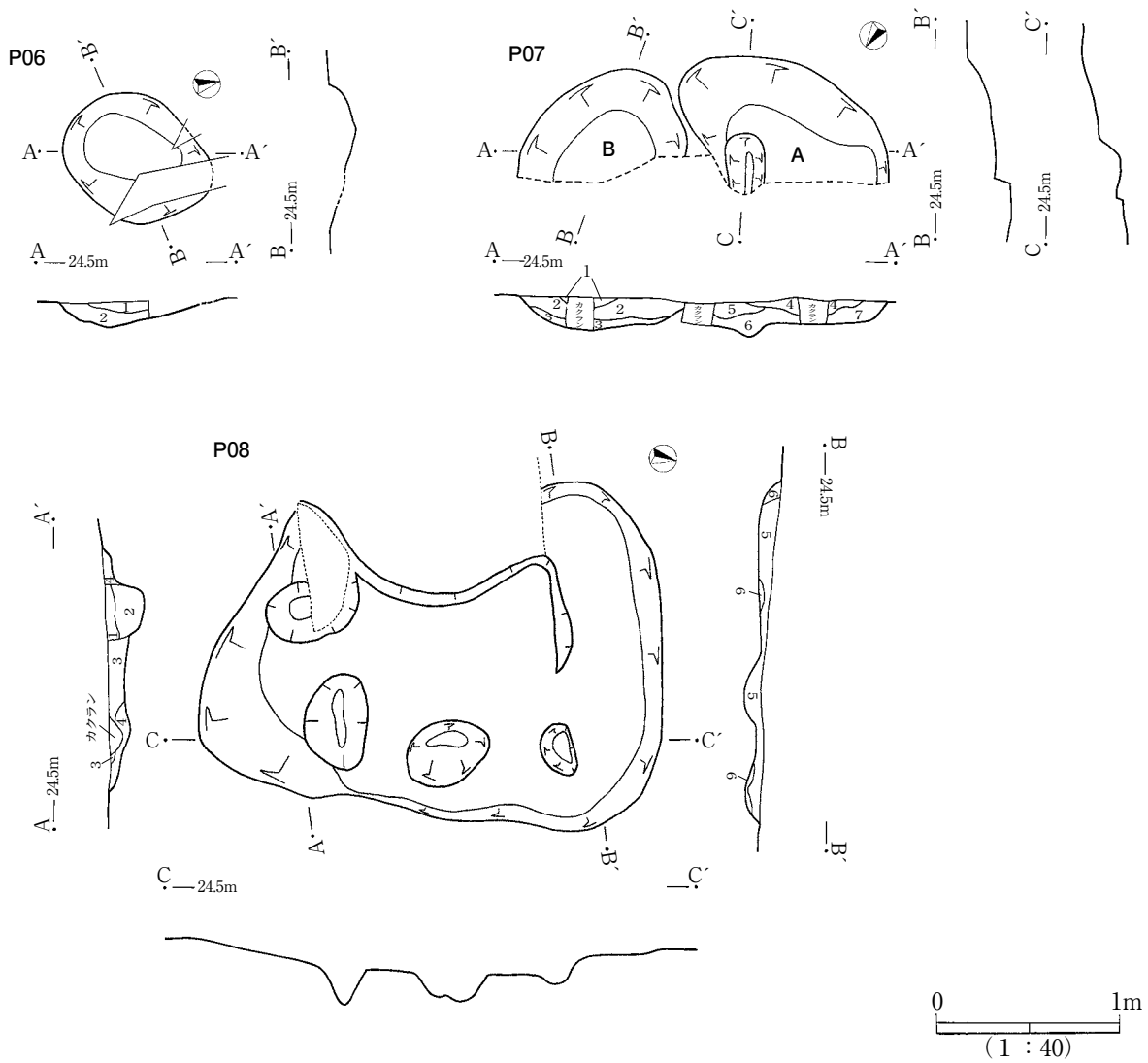
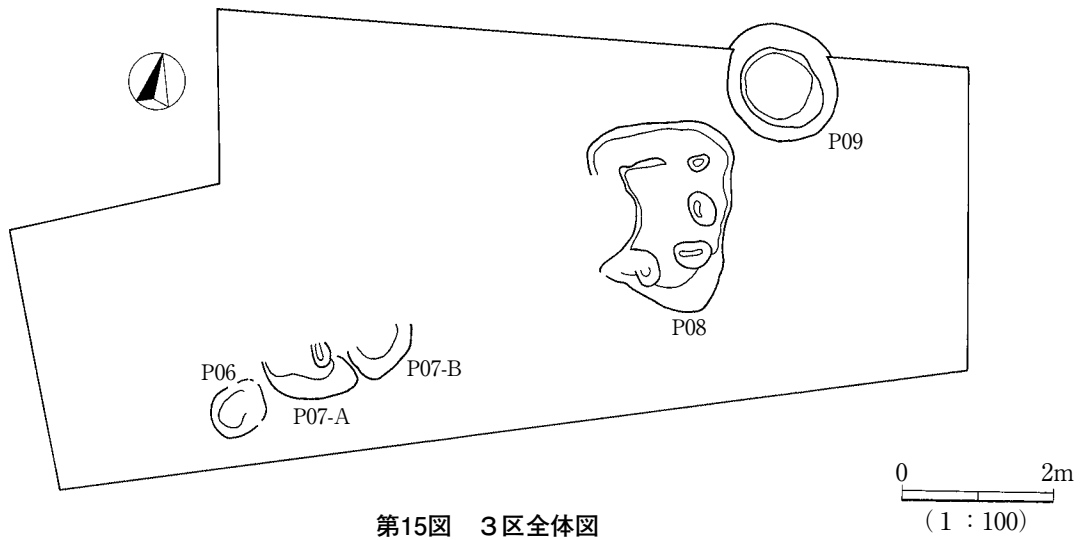
No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)	富む	Li C	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径1mm黄色スコリアまばら
2		7.5 Y R 3/3 (暗褐色), 4/3 (褐色)	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	径3mm以下ローム粒子多量

P07 土坑土層観察表 (第16図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
2	判然	7.5 Y R 4/3 (褐色), 3/3 (暗褐色) にじむ	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	径3mm以下黄色スコリア
3	判然	7.5 Y R 4/3 (褐色), 4/4 (褐色) にじむ	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1mm黄色スコリア, ロームにじむ
4	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色), 3/2 (黒褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	径1mm黄色スコリア
5	漸変	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	20	弱	細根含む	
6	判然	7.5 Y R 4/3 (褐色), 4/4 (褐色) にじむ	含む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	弱	細根含む	
7	5と判然	7.5 Y R 3/2 (黒褐色), 4/3 (褐色)	含む～ 富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	22	中	細根含む	径5mmロームブロック, 径1mm黄色スコリア

P08 土坑土層観察表 (第16図)

No.	層界	色	腐食	土性	構造	孔隙	かたさ	緻密度	可塑性	植物根	その他
1	明瞭	7.5 Y R 3/2 (黒褐色)	富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	18	中	細根含む	
2		7.5 Y R 3/3 (暗褐色), 4/3 (褐色)	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	21	中	細根含む	
3	判然	7.5 Y R 3/3 (暗褐色)	富む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
4		7.5 Y R 4/3 (褐色), 3/3 (暗褐色) にじむ	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	19	中～強	細根含む	径1mm黄色スコリア
5	明瞭	7.5 Y R 3/3 (暗褐色), 4/3 (褐色)	含む～ 富む	Si CL	小亜角塊状	含む	小	19	中	細根含む	径1mm黄色スコリア
6		7.5 Y R 4/3 (褐色)	含む	Si C	小亜角塊状	含む	小	20	中～強	細根含む	



### Ⅲ ま と め

#### 1 全般的な成果

今回の調査の主な成果は、縄文時代後期中葉加曽利 B 式期の遺構・遺物が得られたことである。遺構は土坑群 2 群 18 基、遺物は土器片 156 点・剥片 1 点であった。これらについては次項でまとめた。この他、近世・近代以降の土坑 12 基、現代の井戸 1 基が確認された。

#### 2 縄文時代後期の成果

##### (1) 1区東端土坑群

斜面下方の標高 20m 前後に立地し、土坑 7 基、加曽利 B1-2 式の粗製深鉢の土器片 31 点から成る地点であった。第 17 図がそれをまとめたものである。復元土器は第 9 図の 8 と 9 を合わせたものである。台地上と谷をつなぐ中間地点に相当する所に立地している点が興味深い。このような立地の同時期の遺跡としては、千葉市の東ノ上（西）貝塚 F4 トレンチがある（園生貝塚研究会 1995）。貝塚のある台地上標高 26～27m の地点から、斜面を少し下った標高 23.5～24m の地点に、加曽利 B2 式土器片・貝破片・骨粉そして焼土を伴う雛壇状の遺構が検出されたのである。この遺構を掘り下げると、さらに加曽利 B2 式精製深鉢・焼けた石皿・磨石・軽石・打製石斧などが出土し、さらにその下層には堀之内式土器が出土した。新東原遺跡 a 地点 1 区に比べると、遺物の種類が格段に異なるが、ほぼ同時期の斜面部土地利用という点で共通するものである。台地上や、2 区のような縁辺部に立地する遺跡が多いなか、このような地点にも立地する遺跡があることを記憶に留めておきたい。

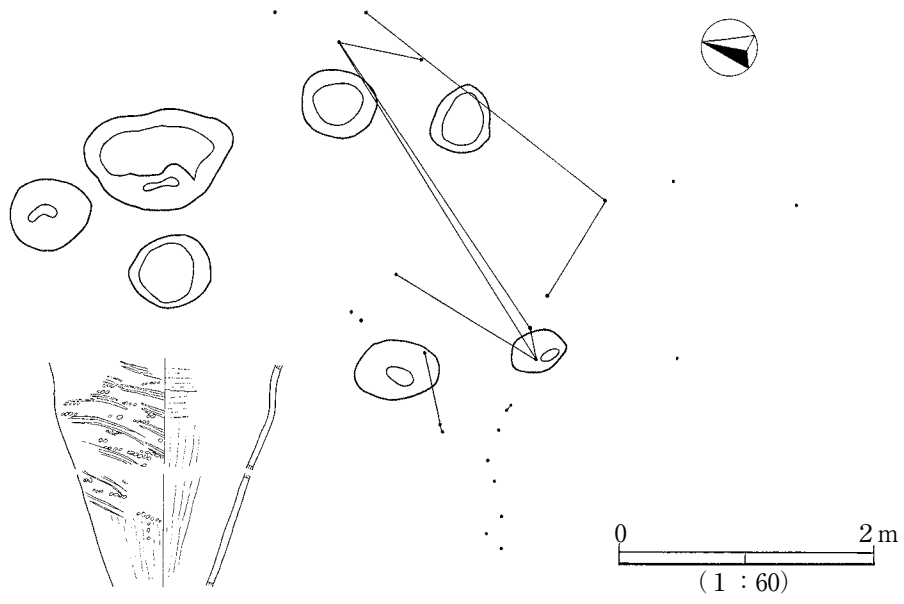
##### (2) 2区の土坑群

2 区は、台地上縁辺部、標高 23m 前後の緩斜面に立地する。土坑は 11 基、加曽利 B1 式の粗製深鉢の破片が 124 点得られた。土坑群の中心には覆土に焼土・炭化物片が含まれていた P10 があり、その付近には硬化面も存在した。それらをまとめたのが第 18 図である。図示した土器は口縁の外反するものと直立するものを、それぞれ同一と思われる破片をつないで復元したものである。

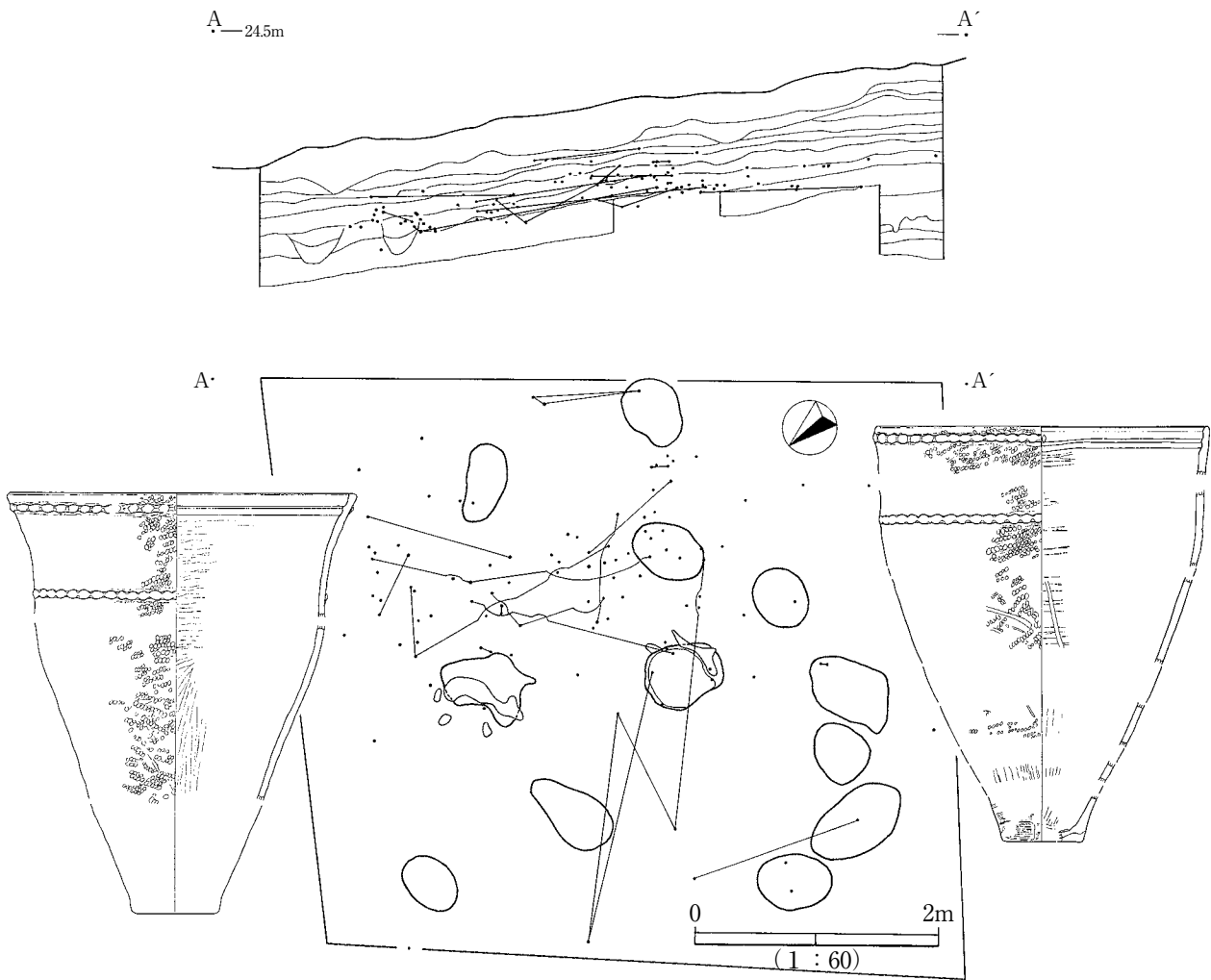
堅穴住居跡を構築するような、生活の拠点としての土地利用は、約 2km 離れた内野第 1 遺跡にあり、新東原遺跡は、それらとは異なった活動の場であったのだろう。遺構・遺物とも種類が少なくシンプルであるから、遺構・遺物の組み合わせの最小単位と認識できる。粗製深鉢を使つての煮炊きと、その周辺に穴を掘る行為、硬化面を作る行為、そして土器の廃棄である。新東原は、集落からやや離れた、狩猟や採集活動の場であったのかもしれない。そこにおけるこのような活動は、キャンプかあるいは手に入れた食材の下処理であろうか。いずれにせよ、内野第 1 遺跡のような集落を支えていた、周辺地域における遺跡のあり方と評価することが可能であろう。加曽利 B 式期は、遺物の量・種類とも豊富な大遺跡が成立する時期である。本遺跡の在り方は、それらとは対照的であるがゆえに、単に内容が貧弱と切り捨てることのできない意義を持っていると思われるのである。

#### 3 縄文時代遺跡としての新東原

序章の 2(2) で既に触れたように、本遺跡では縄文時代前期・中期・後期の土器・石器・遺構が発見されている。いずれも密度の低い遺跡の様相を示しており、地表面採集でも遺物散布は疎である。遺物包含層が深いということもあるだろうし、a 地点・FNN 地点で明らかなように、30～120 点程度の遺物のまとまりが所々に散在しているのかもしれない。把握の難しい遺跡と言えよう。但し、疎とは言え各地点で遺物を得ているし、前項で述べたような後期における本遺跡のもつ意義がある。前期後半と考



第17图 新東原遺跡 a 地点 1 区東端狀況



第18图 新東原遺跡 a 地点 2 区狀況

えられる小型住居跡が存在した，台地南西側の低台地の土地利用も，勝田前畑遺跡の存在とともに興味深い。八千代市域における縄文時代遺跡の特徴は，散発的・断続的ではあるが，各期の遺物が出土するという点である。市域南東端に所在する本遺跡も同様であり，集落遺跡である内野第1遺跡との関係を軸として，縄文時代の在り方を探求できるフィールドと捉えることができよう。

#### 参考文献

財団法人千葉市文化財調査協会（2001）「千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書」

園生貝塚研究会（1995）「縄文人の海と貝塚 東ノ上(西)貝塚発掘調査結果抄録」筑波書房

八千代市教育委員会（1983）「八千代の遺跡－千葉県八千代市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書－」

八千代市教育委員会（2003）「千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書 平成14年度」



## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよしんとうばらいせきえーちてんはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	千葉県八千代市新東原遺跡 a 地点発掘調査報告書							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査							
編著者名	常松成人							
編集機関	八千代市遺跡調査会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 ☎047(483)1151							
発行年月日	西暦2004年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんとうばらいせき 新東原遺跡 a 地点	ちばけんやちよしんとうばらいせきえーちてんはっくつちょうさほうこくしょ 千葉県八千代市勝田字新東原1282-1 ほか	12221	259	35度 41分 59秒	140度 8分 25秒	20031202 ~ 20031224	690	宅地造成
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
新東原遺跡 a 地点	土坑群	縄文時代 近世・近代	土坑18基 土坑12基		縄文土器（後期），剥片			

# 写真図版



(1) 遺跡遠景



(2) 遺跡近景



(3) 1区本調査前風景-1-



(4) 1区本調査前風景-2-



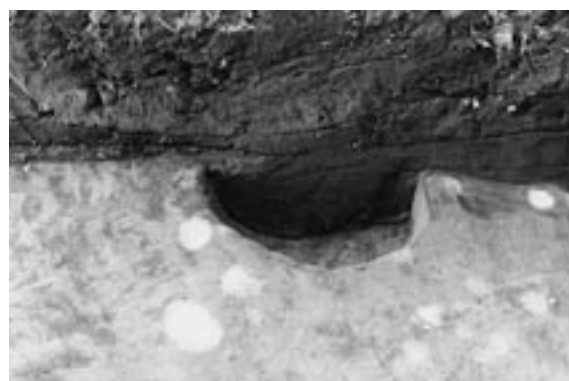
(5) P01土坑土層断面 (確認調査)



(6) P01土坑完掘状況 (確認調査)



(7) P04土坑土層断面 (確認調査)



(8) P05土坑土層断面 (確認調査)

図版2



(1) 1区東端縄文土器出土状況-1-



(2) 1区東端縄文土器出土状況-2-



(3) 1区東端P04土坑完掘状況



(4) 1区東端P05土坑完掘状況



(5) 1区東端P30土坑土層断面



(6) P30土坑完掘状況



(7) 1区東端土坑群完掘状況



(8) 1区南東壁土層断面



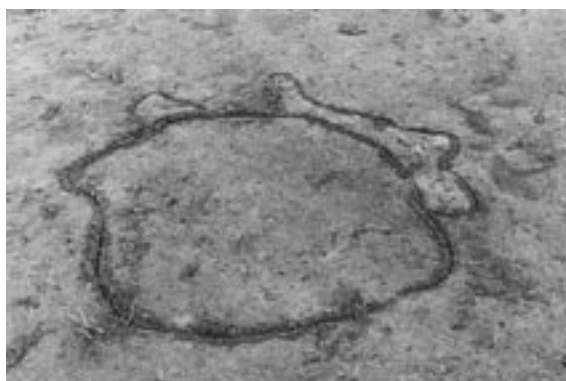
(1) 2区本調査前風景



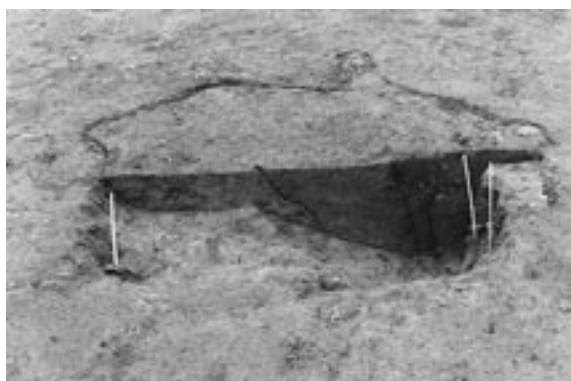
(2) 2区縄文土器出土状況



(3) 2区硬化面検出状況



(4) 2区P10土坑・硬化面検出状況



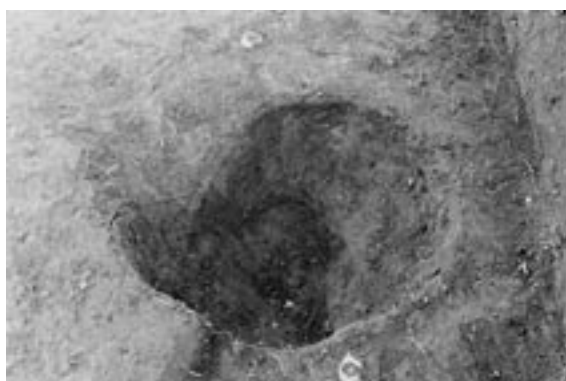
(5) P10土坑土層断面



(6) P10土坑完掘状況

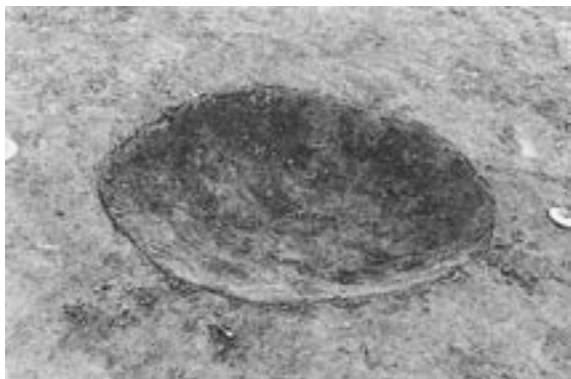


(7) 2区P11土坑完掘状況



(8) 2区P12土坑完掘状況

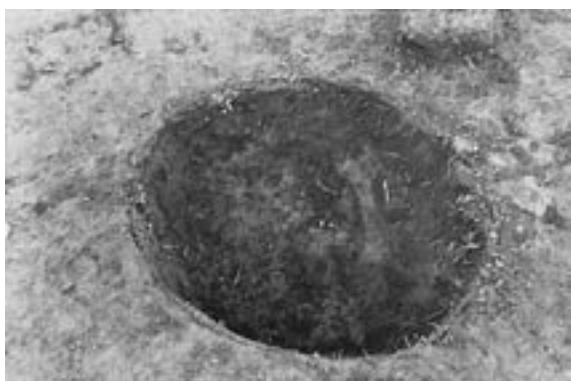
図版4



(1) 2区P13土坑完掘状況



(2) 2区P14土坑土層断面



(3) P14土坑完掘状況



(4) 2区P15土坑土層断面



(5) P15(手前)・P16土坑完掘状況



(6) 2区P17土坑土層断面



(7) 2区P18土坑土層断面



(8) P17(手前)・P18土坑完掘状況



(1) 2区P19土坑土层断面



(2) P19土坑完掘状况



(3) 2区P20土坑土层断面



(4) P20土坑完掘状况



(5) 2区完掘状况-1-



(6) 2区完掘状况-2-



(7) 2区南東壁土层断面-1-



(8) 2区南東壁土层断面-2-

图版6



(1) 1区P21土坑完掘状况



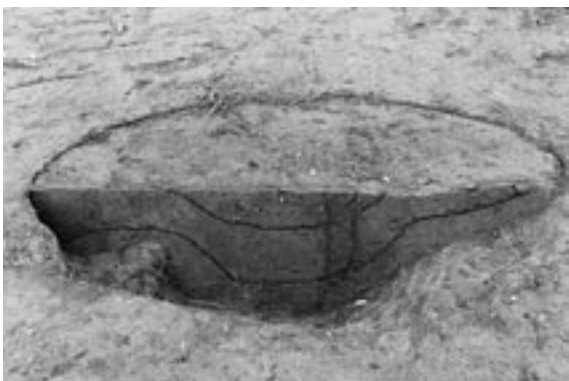
(2) 1区P22土坑完掘状况



(3) 1区P24土坑完掘状况



(4) 1区P25土坑完掘状况



(5) 1区P26土坑土层断面



(6) P26土坑完掘状况



(7) 1区P27土坑完掘状况



(8) 1区P28土坑完掘状况





(1) 1区完掘状況-1-



(2) 1区完掘状況-2-



(3) 1区完掘状況-3-



(4) 1区完掘状況-4-



(5) 3区本調査前風景



(6) 3区P06土坑完掘状況

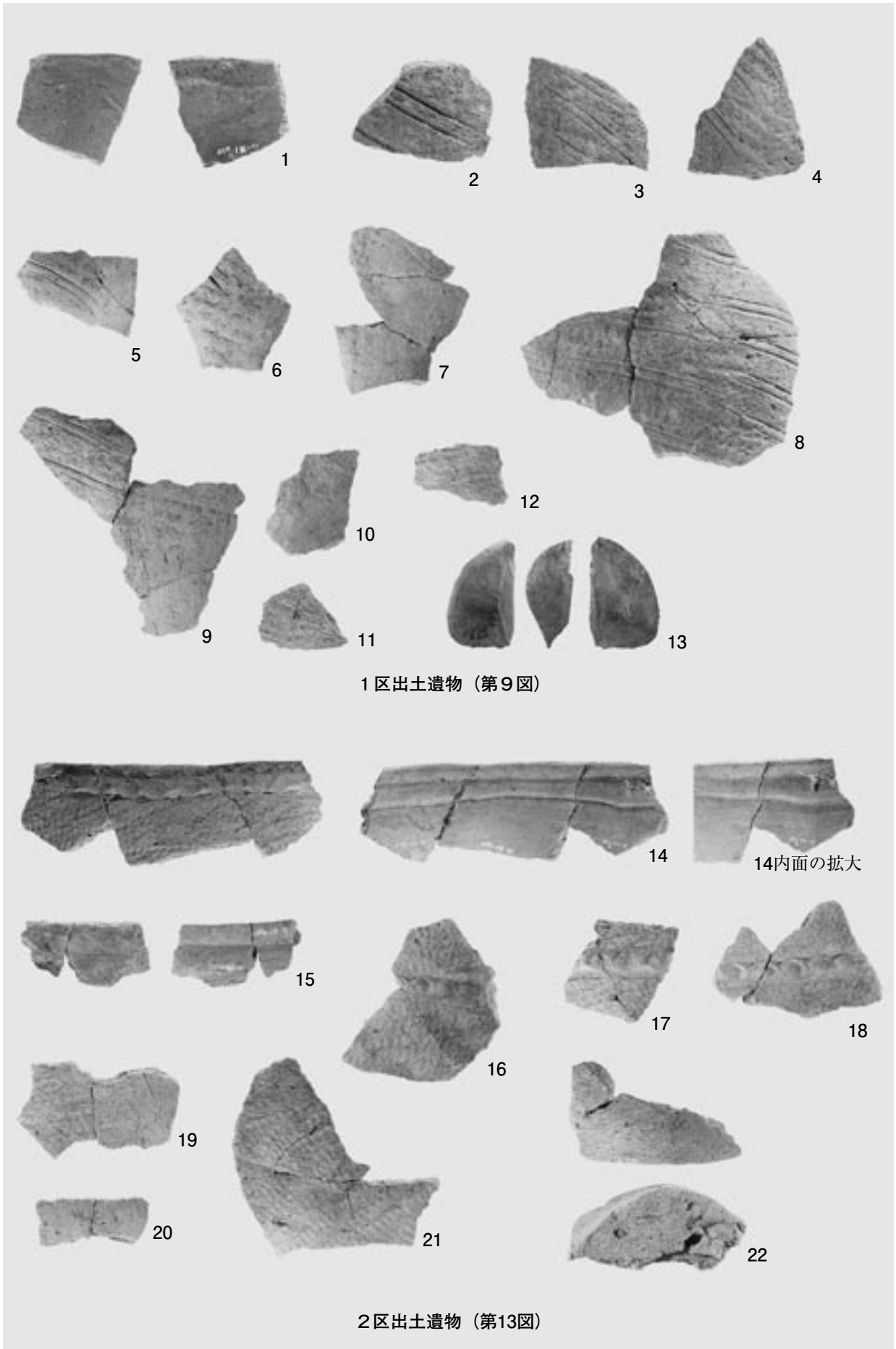


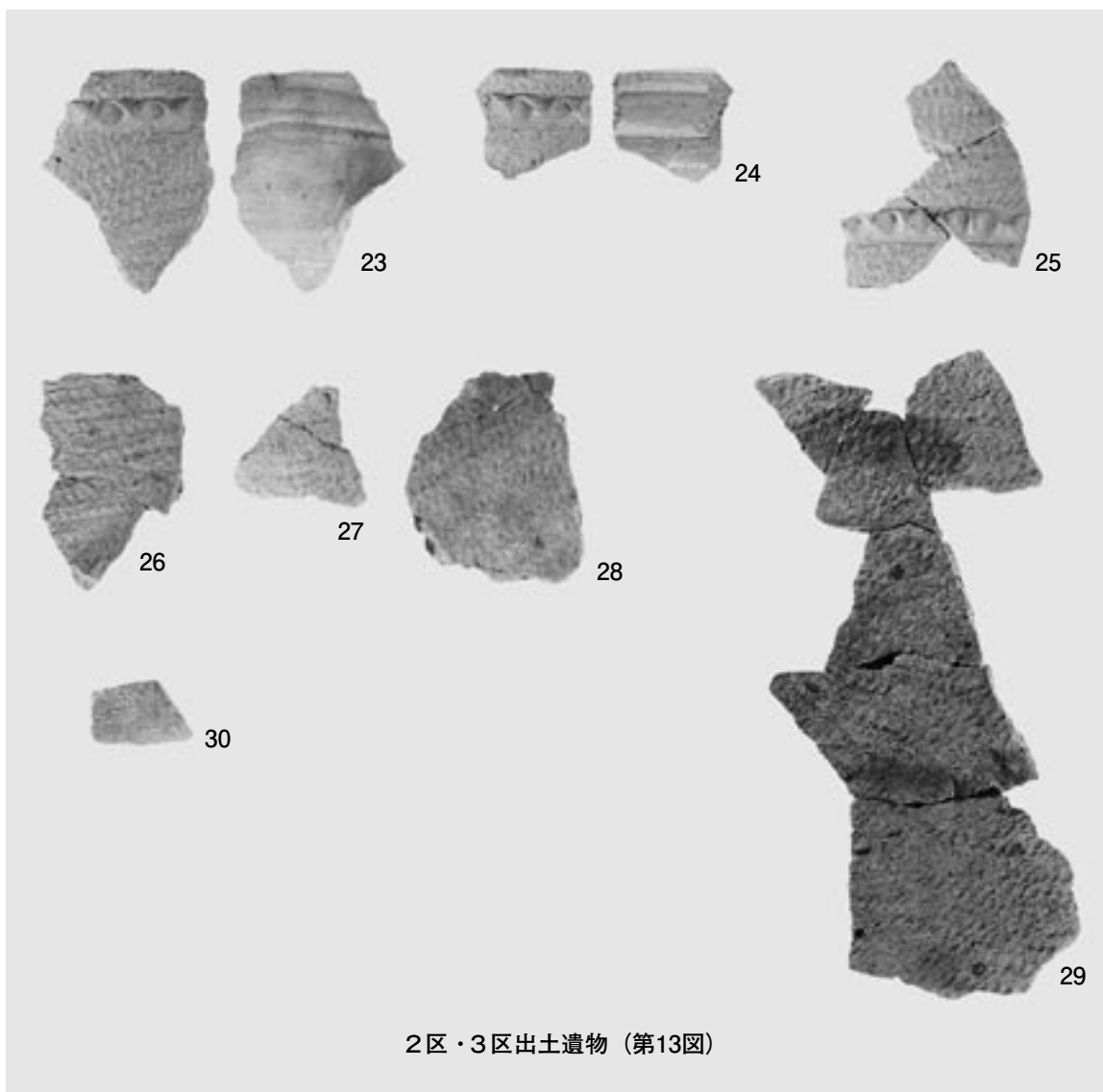
(7) 3区P08土坑完掘状況



(8) 3区完掘状況

図版8





千葉県八千代市新東原遺跡 a 地点発掘調査報告書  
- 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

---

2004年3月31日 発行

編 集 八千代市遺跡調査会

千葉県八千代市大和田138-2

発 行 米 元 孝 之

---